

薬物使用に関する全国住民調査

分担研究者 和田 清 国立精神・神経センター精神保健研究所薬物依存研究部長

研究要旨 ①わが国の飲酒・喫煙・医薬品をも含めた薬物乱用・依存状況を把握するために、層化二段無作為抽出法により選ばれた、全国の15歳以上の住民5,000人に対して、戸別訪問留置法による「薬物使用に関する全国住民調査」を実施した。②回収数は3,790（75.8%）であり、有効回答数は3,788（75.8%）であった。③違法性薬物乱用への生涯誘惑率（これまでに誘われたことのある率）は、有機溶剤（2.6%）、大麻（1.5%）、覚せい剤（0.8%）、コカイン（0.4%）、LSD（0.3%）ヘロイン（0.2%）の順で高かった。有機溶剤は、20歳代で8.2%と高く、大麻は30歳代で高く（4.5%）、覚せい剤も30歳代で高かった（2.0%）。これらいずれかの違法性薬物乱用への生涯誘惑率は、30歳代男性（13.7%）、20歳代男女（男：11.9%、女：8.9%）で突出しており、年代的には20歳代が最高（10.2%）であったことは憂慮すべきことと思われた。④違法性薬物の生涯経験率（これまでに乱用したことのある者の率）は、有機溶剤（1.5%）、大麻（0.8%）、覚せい剤（0.4%）、コカイン（0.2%）、LSD（0.1%）、ヘロイン（0.1%）の順で高かった。大麻の乱用は予想以上に広まっている可能性がある。これらいずれかの違法性薬物の生涯経験率は2.2%にのぼった。有機溶剤は20歳代（4.4%）、30歳代（4.0%）で高く、大麻は30歳代（3.0%）、20歳代（1.6%）で高かった。いずれかの違法性薬物の生涯経験率は、15～19歳で1.9%、20歳代で6.0%、30歳で5.6%であり、30歳代の男性では10.7%にものぼった。若い年代で経験率が高いということは、社会全体での薬物乱用傾向が強いことを意味しており、憂慮すべき事態を反映していると考えられた。⑤本調査研究では、違法性薬物名の周知度、健康に及ぼす害、入手可能性、遵法精神等も調査した。今日のわが国の薬物乱用・依存状況は、多くの先進諸国に比べて、未だに良好ではあるが、大麻を中心とする違法性薬物の生涯経験率が増加傾向にあり、30歳代以下における乱用経験率は決して低いと言えるものではなく、若い世代では、遵法精神に齟りも見られ、社会的注意喚起の持続・維持が必要であると思われた。⑥なお、本調査では、違法性薬物以外に、飲酒、喫煙、常備薬、鎮痛薬・精神安定薬・睡眠薬の乱用・依存状況をも調査した。その結果、飲酒はライフ・サイクルと深く結びついており、喫煙では、喫煙者の約70%が禁煙希望群であり、鎮痛薬・精神安定薬・睡眠薬は社会的にそれなりに良好に管理されていると思われた。

分担研究者 和田 清
 国立精神・神経センター
 精神保健研究所薬物依存研究部長
 研究協力者 菊池安希子 同上
 流動研究員
 尾崎 茂 同上
 心理社会研究室長
 菊池周一 同上
 依存性薬物研究室長

となり、各国にとって深刻な問題となっている。

戦後のわが国での歴史は、覚せい剤、有機溶剤の乱用・依存問題との戦いであり、特にその歴史は覚せい剤の乱用に特徴づけられる。終戦後という混乱した時代に発生した第一次覚せい剤乱用期、オイル・ショックに象徴される経済不況による第二次覚せい剤乱用期を経て、1990年頃からは、国際化の実質化としての乱用薬物の多様化が顕著となり、バブル経済の破綻後の1995年以降は、第三次覚せい剤乱用期となった12)。

このように、薬物乱用・依存問題は時代・社会の変化と共に刻々と変化しており、その対策もその時々の実情に即したものでなければならない。

A. 研究目的

薬物乱用・依存問題は、今やグローバルな問題

そのためには、乱用・依存の実態を経年的に把握する多面的な疫学的調査が必要である。しかも、それらには、違法性薬物以外の常備薬を含めた医薬品の実態把握も含まれることが望ましい。

本調査は、幾つかある経年的全国調査の中の一つであり、わが国唯一の全国の一般住民を対象とした薬物乱用・依存の実態把握調査である。

この住民調査は、厚生科学研究費補助金により実施されてきた。1992年には千葉県・市川市(対象：1,100人)²⁾で、1993年には東京圏、大阪圏(対象：3,000人)³⁾、1994年には東京圏、大阪圏、北九州圏(対象：3,300人)⁴⁾に対して実施され、その成果のもとで、1995年には、わが国初の「薬物使用に関する全国住民調査」(対象：5,000人)⁵⁾となった。その後、全国規模の調査は1997年にも実施され⁶⁾、今回の1999年調査となった。

本調査研究の成果は、わが国における薬物乱用・依存の啓発、予防、介入対策の基礎資料となるものであることは言うまでもないが、常備薬をも含めた医薬品のあり方を考える際の基礎資料にもなり得るものである。

B. 研究方法

研究計画は下記の通りである。

- ・地域 全国
- ・対象 市区町村に住む満15歳以上の男女
標本数：5,000人
- ・抽出方法 層化2段無作為抽出
(調査地点数：350)
(社団法人 新情報センター に委託)
- ・調査方法 調査員による個別訪問留置法
(社団法人 新情報センター に委託)
- ・調査内容 巻末資料の通り
- ・調査期間 1999年9月22日～10月6日

層化2段無作為抽出について

この種の疫学的調査において最も大切なことは、全国の地区町村に住む15歳以上の男女5,000人を如何に適切に無作為抽出するかである。そのための方法として、一連の本調査では層化2段無作為抽出法を採用している。その概略は以下の通りである。

(1) 全国の地区町村を都道府県を単位として、以下の11地区に分類した。

北海道地区＝北海道
東北 地区＝青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
関東 地区＝茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
北陸 地区＝新潟県、富山県、石川県、福井県
東山 地区＝山梨県、長野県、岐阜県
東海 地区＝静岡県、愛知県、三重県
近畿 地区＝滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中国 地区＝鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
四国 地区＝徳島県、香川県、愛媛県、高知県
北九州地区＝福岡県、佐賀県、長崎県、大分県
南九州地区＝熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

(2) さらに各地区内を、都市規模によって以下のように16分類し、それぞれを第1次層として、下記のように計46層とした。

- ・大都市＝東京都区部、札幌市、仙台市、千葉市、横浜市、川崎市、名古屋市、京都市、大阪市、神戸市、広島市、北九州市、福岡市(計13層)
- ・人口10万人以上の都市(計11層)
- ・人口10万人未満の都市(計11層)
- ・郡部(町村)(計11層)

(注)：ここでいう都市とは、平成11年4月1日現在による市制施行の地域である。また、人口による都市規模の分類は、平成10年3月31日現在の住民基本台帳に基づく「住民基本台帳人口要覧」(自治省行政局編)によった(15歳以上の人口：106,448,789)。

(3) 標本数5,000人を、上記46層の各層における人口密度に基づき、各層に比例配分し、各調査地点の標本数が11～16になるように調査地点を決めた。

(4) 第1次抽出単位となる調査地点には、平成7年国勢調査時に設定された調査地点を使用し、調査地点(調査区)の抽出は、以下の手順によった。

- ・層内での調査地点(調査区)数が1の場合には、乱数表により無作為に1地点を抽出した。
- ・調査地点(調査区)数が2以上の場合には、抽出間隔(＝<層における国勢調査時の15歳以上人口の(計)>÷<層で算出された調査地点数>)を算出し、等間隔抽出法によって、調査地点(調査区)を無作為抽出した。調査地点(調査区)を抽出する操作を1段という。

(5) 抽出に際しての各層内市区町村の配列順序は、平成7年国勢調査時の市町村コードに従った。

(6) 調査地点(調査区)における対象者の抽出は、抽出間隔(＝<調査区における国勢調査時の15歳

地区	大都市				人口10万 以上の市	人口10万 未満の市	郡部 (町村)	計
	東京都 区部	横浜 京都	川崎・大阪 北九州	その他 の市				
北海道				71(5)	67(5)	36(3)	53(4)	227(17)
東北				38(3)	117(8)	92(6)	142(10)	389(27)
関東	326(22)	134(9)	48(4)	34(3)	631(44)	220(15)	196(14)	1,589(111)
北陸					84(6)	66(5)	74(5)	224(16)
東山					70(5)	55(4)	80(6)	205(15)
東海				84(6)	216(15)	92(6)	100(7)	492(34)
近畿		56(4)	101(7)	58(4)	369(25)	123(8)	110(8)	817(56)
中国				43(3)	121(8)	62(4)	83(6)	309(21)
四国					65(5)	40(3)	64(5)	97(7)
北九州			41(3)	50(4)	74(5)	79(5)	97(7)	341(24)
南九州					92(6)	54(4)	92(6)	238(16)
計	326(22)	190(13)	190(14)	378(28)	1,906(132)	919(63)	1,091(78)	5,000(350)

表1 地区・都市規模による調査票本数と地点数－標本数（地点数）

調査対象数	5,000
回答数（率）	3,790（75.8%）
事故数（率）	1,210（24.2%）
事故の内訳	
転居	129（2.6%）
長期不在	70（1.4%）
一時不在	283（5.7%）
住居不明	34（0.7%）
拒否	593（11.9%）
その他	101（2.0%）

表2 回答数（率）及び事故数（率）

地区	標本数	回答数（率）
北海道	227	185（81.5）
東北	389	322（82.8）
関東	1589	1079（67.9）
北陸	224	200（89.3）
東山	205	170（82.9）
東海	492	416（84.6）
近畿	817	588（72.0）
中国	309	250（80.9）
四国	169	136（80.5）
北九州	341	251（73.6）
南九州	238	193（81.6）
計	5,000	3,790（75.8）

表4 地区別標本数と回収数（率）

	男性		女性	
	人数	率	人数	率
	656人	54.2%	554人	45.8%
15～19歳	5.2		5.0	
20歳代	11.7		9.6	
30歳代	9.4		8.0	
40歳代	10.0		7.8	
50歳代	10.6		8.8	
60歳以上	7.3		6.5	

表3 性別・年代別事故率（%）

以上の人口 \times 各層での調査区抽出標本数 \div を算出し、住民基本台帳より等間隔抽出法により無作為抽出した。調査地点（調査区）から対象者を抽出する操作を2段という。

以上の操作によって得られた層別標本数と調査地点（調査区）数を表1に示した。

		男性	女性	全体
年 齢	15-19歳	138 (7.7)	128 (6.4)	267 (7.0)
	20-24歳	107 (6.0)	137 (6.8)	244 (6.4)
	25-29歳	120 (6.7)	134 (6.7)	254 (6.7)
	30-34歳	128 (7.2)	174 (8.7)	303 (8.0)
	35-39歳	143 (8.0)	197 (9.8)	341 (9.0)
	40-44歳	135 (7.6)	173 (8.6)	308 (8.1)
	45-49歳	187 (10.5)	196 (9.8)	383 (10.1)
	50-59歳	348 (19.5)	422 (21.1)	770 (20.3)
	60歳以上	474 (26.6)	439 (21.9)	913 (24.1)
	無回答	3 (.2)	2 (.1)	5 (.1)
学 歴	小学校	44 (2.5)	51 (2.5)	95 (2.5)
	中学校	388 (21.8)	359 (17.9)	747 (19.7)
	高等学校	856 (48.0)	1090 (54.4)	1949 (51.5)
	短大・大学以上	464 (26.0)	472 (23.6)	936 (24.7)
	無回答	31 (1.7)	30 (1.5)	61 (1.6)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)	

表5 対象の性・年齢・学歴 (%)

全体の中には、性別不明者3名を含む

	男性	女性	全体
中学生	20 (1.1)	9 (.4)	29 (.8)
高校生	83 (4.7)	82 (4.1)	165 (4.4)
予備校生	5 (.3)	2 (.1)	7 (.2)
専門学校、各種学校生徒	12 (.7)	17 (.8)	29 (.8)
短大生、大学生、大学院生	46 (2.6)	30 (1.5)	76 (2.0)
農林漁業自営者	70 (3.9)	31 (1.5)	101 (2.7)
商店主	50 (2.8)	35 (1.7)	86 (2.3)
工場主	39 (2.2)	15 (.7)	54 (1.4)
土木建築業種	57 (3.2)	13 (.6)	70 (1.8)
医療関係業種	12 (.7)	5 (.2)	17 (.4)
サービス業事業主	54 (3.0)	48 (2.4)	102 (2.7)
その他の事業主	27 (1.5)	9 (.4)	36 (1.0)
販売従業者	108 (6.1)	118 (5.9)	226 (6.0)
保安従業者	35 (2.0)	6 (.3)	41 (1.1)
運輸従業者	73 (4.1)	2 (.1)	75 (2.0)
通信従事者	6 (.3)	3 (.1)	9 (.2)
サービス業従事者	19 (1.1)	93 (4.6)	112 (3.0)
技能職従事者	25 (1.4)	27 (1.3)	52 (1.4)
土木建築業従事者	138 (7.7)	6 (.3)	145 (3.8)
工場労働者、工業作業員	158 (8.9)	72 (3.6)	230 (6.1)
その他の労務従事者	21 (1.2)	36 (1.8)	57 (1.5)
専務従事者	133 (7.5)	221 (11.0)	354 (9.3)
管理的職業	102 (5.7)	4 (.2)	106 (2.8)
医療職従事者	12 (.7)	73 (3.6)	85 (2.2)
その他の専門技術職従事者	125 (7.0)	60 (3.0)	186 (4.9)
専業主婦	—	780 (39.0)	780 (20.6)
無職	313 (17.6)	166 (8.3)	479 (12.6)
その他	27 (1.5)	37 (1.8)	64 (1.7)
無回答	13 (.7)	2 (.1)	15 (.4)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表6 対象の職業・身分 (%)

全体の中には、性別不明者3名を含む

	男性	女性	全体
一度も飲んだことがない	132 (7.4)	331 (16.5)	463 (12.2)
現在禁酒中	75 (4.2)	45 (2.2)	120 (3.2)
禁酒ではないが1年間は飲んでいない	31 (1.7)	90 (4.5)	121 (3.2)
1年間に数回飲んだ(年間5回以内)	188 (10.5)	469 (23.4)	657 (17.3)
2ヶ月に1回程度飲んだ(年間約6-11回)	63 (3.5)	140 (7.0)	203 (5.4)
月に1-2回程度飲んだ(年間約12-24回)	122 (6.8)	219 (10.9)	341 (9.0)
月に数回程度飲んだ(年間約25-51回)	99 (5.6)	144 (7.2)	243 (6.4)
週に1-2回程度飲んでいる	188 (10.5)	202 (10.1)	391 (10.3)
週に3-6回程度飲んでいる	248 (13.9)	145 (7.2)	393 (10.4)
ほとんど毎日飲んでいる	582 (32.6)	140 (7.0)	724 (19.1)
1年以内に飲酒したが詳細不明	39 (2.2)	46 (2.3)	85 (2.2)
飲酒経験ありだが詳細不明	10 (.6)	15 (.7)	25 (.7)
無回答	6 (.3)	16 (.8)	22 (.6)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表7 現在の飲酒習慣(%)

全体の中には、性別不明者3名を含む

	男性	女性	全体
飲酒経験あり	1645 (92.3)	1655 (82.7)	3303 (87.2)
なし	132 (7.4)	331 (16.5)	463 (12.2)
無回答	6 (.3)	16 (.8)	22 (.6)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表8 これまでの飲酒経験の有無(飲酒生涯経験率)(%)

全体の中には、性別不明者3名を含む

	男性	女性	全体
飲酒経験あり	1552 (87.1)	1520 (76.0)	3075 (81.2)
なし	213 (11.9)	451 (22.5)	664 (17.5)
無回答	18 (1.0)	31 (1.5)	49 (1.3)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表9 この1年間での飲酒経験の有無(飲酒1年経験率)(%)

全体の中には、性別不明者3名を含む

	男性	女性	全体
冠婚葬祭時	444 (28.6)	390 (25.7)	835 (27.2)
仕事・商売上の必要	317 (20.4)	114 (7.5)	431 (14.0)
上司とのつきあい	142 (9.1)	43 (2.8)	185 (6.0)
友人・同僚とのつきあい	756 (48.7)	628 (41.3)	1386 (45.1)
その他のつきあい	161 (10.4)	88 (5.8)	249 (8.1)
家での食事・団らん	997 (64.2)	879 (57.8)	1878 (61.1)
外での食事・団らん	320 (20.6)	429 (28.2)	749 (24.4)
仕事・職場で嫌なことがあった時	46 (3.0)	23 (1.5)	69 (2.2)
家で面白くないことがあった時	19 (1.2)	22 (1.4)	41 (1.3)
寝る前	202 (13.0)	176 (11.6)	378 (12.3)
その他	22 (1.4)	35 (2.3)	57 (1.9)
詳細不明	24 (1.5)	18 (1.2)	42 (1.4)
合計	1552 (222.3)	1520 (187.2)	3075 (204.9)

表10 過去1年間の飲酒機会(複数回答)(%)

全体の中には、性別不明者3名を含む

	男性	女性	全体
初めての飲酒年齢			
小学校以前	52 (3.2) [3.2]	58 (3.5) [3.5]	110 (3.3) [3.3]
小学校時代	223 (13.6) [16.7]	197 (11.9) [15.4]	420 (12.7) [16.0]
中学校時代	285 (17.3) [34.0]	179 (10.8) [26.2]	465 (14.1) [30.1]
中卒後18歳より前	271 (16.5) [50.5]	173 (10.5) [36.7]	445 (13.5) [43.6]
18-19歳	449 (27.3) [77.8]	408 (24.7) [61.3]	858 (26.0) [69.6]
20歳以降	326 (19.8) [97.6]	545 (32.9) [94.3]	871 (26.4) [95.9]
無回答	39 (2.4) [100]	95 (5.7) [100]	134 (4.1) [100]
合計	1645 (100.0)	1655 (100.0)	3303 (100.0)

表11 初めての飲酒経験年齢（初飲年齢）（%），[累積%] 全体の中には、性別不明者3名を含む

	男性	女性	全体
本格的な飲酒の開始			
小学校以前	1 (.1) [.1]	1 (.1) [.1]	2 (.1) [.1]
小学校時代	2 (.1) [.2]	1 (.1) [.1]	3 (.1) [.2]
中学校時代	20 (1.2) [1.3]	12 (.7) [.8]	32 (1.0) [1.1]
中卒後18歳より前	125 (7.6) [9.0]	86 (5.2) [6.0]	212 (6.4) [7.5]
18-19歳	428 (26.0) [35.0]	318 (19.2) [25.3]	747 (22.6) [30.2]
20歳以降	991 (60.2) [95.3]	1048 (63.3) [88.6]	2040 (61.8) [91.9]
無回答	78 (4.7) [100]	189 (11.4) [100]	267 (8.1) [100]
合計	1645 (100.0)	1655 (100.0)	3303 (100.0)

表12 それなりに飲酒するようになった時期（%），[累積%] 全体の中には、性別不明者3名を含む

	男性	女性	全体
禁酒の日数			
1ヶ月未満	9 (12.0)	4 (8.9)	13 (10.8)
3ヶ月未満	7 (9.3)	5 (11.1)	12 (10.0)
6ヶ月未満	5 (6.7)	2 (4.4)	7 (5.8)
1年未満	2 (2.7)	4 (8.9)	6 (5.0)
3年未満	8 (10.7)	5 (11.1)	13 (10.8)
5年未満	5 (6.7)	4 (8.9)	9 (7.5)
それ以上	37 (49.3)	21 (46.7)	58 (48.3)
無回答	2 (2.7)	—	2 (1.7)
合計	75 (100)	45 (100)	120 (100)

表13 現在禁酒中の者の禁酒期間（%）

	男性	女性	全体
禁酒中（まだ1年たっていない）	31 (1.9)	33 (2.0)	64 (1.9)
禁酒を試みたが失敗した	66 (4.0)	29 (1.8)	95 (2.9)
禁酒を考えたが実行したことはない	197 (12.0)	75 (4.5)	273 (8.3)
禁酒を考えたことはない	1163 (70.7)	1260 (76.1)	2425 (73.4)
無回答	188 (11.4)	258 (15.6)	446 (13.5)
合計	1645 (100.0)	1655 (100.0)	3303 (100.0)

表14 禁酒を考えたことがありますか？（%） 全体の中には、性別不明者3名を含む

	男 性	女 性	全 体
健康上不調は感じないが可能性が心配になったから	126 (45.2)	55 (43.0)	182 (44.6)
健康上の不調を感じたから	116 (41.6)	44 (34.4)	160 (39.2)
問題は起こしてないが自分の飲酒問題を感じたから	33 (11.8)	15 (11.7)	48 (11.8)
飲酒で問題を起こしたから	8 (2.9)	3 (2.3)	11 (2.7)
その他	13 (4.7)	19 (14.8)	32 (7.8)
合計	279 (106.1)	128 (106.3)	408 (106.1)

表15 禁酒理由（複数回答）（%）

全体の中には、性別不明者1名を含む

	男 性	女 性	全 体
吸ったことがない	408 (22.9)	1454 (72.6)	1863 (49.2)
以前吸っていたが、現在は吸っていない	470 (26.4)	192 (9.6)	662 (17.5)
1日に1-10本吸っている	142 (8.0)	129 (6.4)	271 (7.2)
1日に11-20本吸っている	419 (23.5)	125 (6.2)	545 (14.4)
1日に21本以上吸っている	301 (16.9)	38 (1.9)	340 (9.0)
主にパイプ煙草を吸っている	6 (.3)	3 (.1)	9 (.2)
喫煙経験者だが詳細不明	25 (1.4)	16 (.8)	41 (1.1)
無回答	12 (.7)	45 (2.2)	57 (1.5)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表16 現在の喫煙習慣（%）

全体の中には、性別不明者3名を含む

	男 性	女 性	全 体	
喫煙経験	あり	1363 (76.4)	503 (25.1)	1868 (49.3)
	なし	408 (22.9)	1454 (72.6)	1863 (49.2)
	無回答	12 (.7)	45 (2.2)	57 (1.5)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)	

表17 これまでの喫煙経験（%）

全体の中には、性別不明者3名を含む

	男 性	女 性	全 体
小学校以前	8 (.6) [.6]	3 (.6) [.6]	11 (.6) [.6]
小学校時代	108 (7.9) [8.5]	24 (4.8) [5.4]	132 (7.1) [7.7]
中学校時代	255 (18.7) [27.2]	75 (14.9) [20.3]	331 (17.7) [25.4]
中卒後18歳より前	273 (20.0) [47.2]	98 (19.5) [39.8]	372 (19.9) [45.3]
18-19歳	371 (27.2) [74.5]	118 (23.5) [63.2]	489 (26.2) [71.5]
20歳以降	306 (22.5) [96.9]	161 (32.0) [95.2]	467 (25.0) [96.5]
無回答	42 (3.1) [100]	24 (4.8) [100]	66 (3.5) [100]
合計	1363 (100.0)	503 (100.0)	1868 (100.0)

表18 初めての喫煙年齢（%）, [累積%]

全体の中には、性別不明者2名を含む

	男性	女性	全体
小学校以前	1 (.1) [.1]	— — [0]	1 (.1) [.1]
小学校時代	1 (.1) [.1]	— — [0]	1 (.1) [.1]
中学校時代	49 (3.6) [3.7]	16 (3.2) [3.2]	65 (3.5) [3.6]
中卒後18歳より前	171 (12.5) [16.3]	60 (11.9) [15.1]	232 (12.4) [16.0]
18-19歳	417 (30.6) [46.9]	122 (24.3) [39.4]	540 (28.9) [44.9]
20歳以降	622 (45.6) [92.5]	221 (43.9) [83.3]	843 (45.1) [90.0]
本格的な喫煙には至らず	55 (4.0) [96.6]	59 (11.7) [95.0]	114 (6.1) [96.1]
無回答	47 (3.4) [100]	25 (5.0) [100]	72 (3.9) [100]
合計	1363 (100.0)	503 (100.0)	1868 (100.0)

表19 それなりに喫煙するようになった年齢 (%)

全体の中には、性別不明者2名を含む

	男性	女性	全体
禁煙の日数 1ヶ月未満	6 (1.3)	4 (2.1)	10 (1.5)
3ヶ月未満	7 (1.5)	9 (4.7)	16 (2.4)
6ヶ月未満	8 (1.7)	10 (5.2)	18 (2.7)
1年未満	19 (4.0)	18 (9.4)	37 (5.6)
3年未満	46 (9.8)	25 (13.0)	71 (10.7)
5年未満	40 (8.5)	18 (9.4)	58 (8.8)
それ以上	334 (71.1)	101 (52.6)	435 (65.7)
無回答	10 (2.1)	7 (3.6)	17 (2.6)
合計	470 (100.0)	192 (100.0)	662 (100.0)

表20 禁煙者の禁煙期間 (%)

	男性	女性	全体
過去に禁煙期間があった	327 (24.0)	142 (28.2)	470 (25.2)
禁煙を考えたが実行したことはない	240 (17.6)	88 (17.5)	329 (17.6)
禁煙を考えたことはない	295 (21.6)	61 (12.1)	356 (19.1)
無回答	501 (36.8)	212 (42.1)	713 (38.2)
合計	1363 (100.0)	503 (100.0)	1868 (100.0)

表21 禁煙を考えたことがありますか? (%)

全体の中には、性別不明者2名を含む

	男性	女性	全体
健康上不調は感じないが、可能性が心配	326 (60.3)	114 (50.9)	441 (57.5)
健康上の不調	138 (25.5)	49 (21.9)	187 (24.4)
喫煙者が白い目で見られるようになったから	32 (5.9)	15 (6.7)	47 (6.1)
人に禁煙を強く言われた	46 (8.5)	27 (12.1)	74 (9.6)
その他	49 (9.1)	38 (17.0)	87 (11.3)
合計	541 (109.2)	24 (108.5)	767 (109.0)

表22 禁煙理由 (%)

全体の中には、性別不明者2名を含む

	男 性	女 性	全 体
特にない	208 (11.9)	162 (8.2)	370 (9.9)
風邪薬	1316 (75.0)	1542 (78.2)	2861 (76.7)
胃腸薬	1253 (71.4)	1448 (73.5)	2704 (72.5)
ビタミン剤	497 (28.3)	703 (35.7)	1202 (32.2)
強精強肝薬	28 (1.6)	24 (1.2)	52 (1.4)
鎮痛薬	621 (35.4)	972 (49.3)	1595 (42.8)
精神安定薬	66 (3.8)	111 (5.6)	177 (4.7)
睡眠薬	54 (3.1)	57 (2.9)	111 (3.0)
抗生物質	87 (5.0)	150 (7.6)	237 (6.4)
湿布薬	965 (55.0)	1322 (67.1)	2289 (61.4)
その他	63 (3.6)	116 (5.9)	179 (4.8)
合計	1754 (294.1)	1971 (335.2)	3728 (315.9)

表23 家庭の常備薬（複数回答）（%） 全体の中には、性別不明者3名を含む

	男 性	女 性	全 体
特にない	1094 (69.4)	1189 (66.9)	2285 (68.1)
風邪薬	29 (1.8)	30 (1.7)	59 (1.8)
胃腸薬	180 (11.4)	148 (8.3)	328 (9.8)
ビタミン剤	182 (11.5)	278 (15.6)	460 (13.7)
強精強肝薬	9 (.6)	2 (.1)	11 (.3)
鎮痛薬	28 (1.8)	63 (3.5)	91 (2.7)
精神安定薬	35 (2.2)	65 (3.7)	100 (3.0)
睡眠薬	18 (1.1)	22 (1.2)	40 (1.2)
抗生物質	8 (.5)	10 (.6)	18 (.5)
湿布薬	68 (4.3)	88 (4.9)	156 (4.6)
その他	88 (5.6)	120 (6.7)	208 (6.2)
合計	1576 (110.3)	1778 (113.3)	3356 (111.9)

表24 常用（週4回以上）している薬（複数回答）（%）

全体の中には、性別不明者2名を含む

	男 性	女 性	全 体
一度も飲んでいない	1094 (61.4)	894 (44.7)	1990 (52.5)
1年間で数回（年間5回以内）	466 (26.1)	634 (31.7)	1101 (29.1)
2ヶ月に1回程度（年間約6-11回）	63 (3.5)	145 (7.2)	208 (5.5)
月に1-2回程度（年間約12-24回）	35 (2.0)	139 (6.9)	174 (4.6)
月に数回程度（年間約25-51回）	21 (1.2)	69 (3.4)	90 (2.4)
週に1-2回程度	18 (1.0)	28 (1.4)	46 (1.2)
週に3-6回程度	12 (.7)	12 (.6)	24 (.6)
ほとんど毎日	16 (.9)	22 (1.1)	38 (1.0)
無回答	58 (3.3)	59 (2.9)	117 (3.1)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表25 過去1年間の鎮痛薬の使用頻度（%）

全体の中には、性別不明者3名を含む

	男 性	女 性	全 体
医師・医院・病院	290 (46.5)	440 (42.1)	730 (43.7)
薬剤師・薬局	267 (42.9)	564 (54.0)	831 (49.8)
家族・常備薬	142 (22.8)	184 (17.6)	327 (19.6)
友人・知人	5 (.8)	13 (1.2)	18 (1.1)
愛人・恋人	1 (.2)	— —	1 (.1)
その他	5 (.8)	10 (1.0)	15 (.9)
合計	623 (114.0)	1045 (115.9)	1669 (115.2)

表26 鎮痛薬の入手先（複数回答）（％） 全体の中には、性別不明者1名を含む

	男 性	女 性	全 体
頭痛	379 (62.2)	709 (68.6)	1089 (66.3)
生理痛	2 (.3)	307 (29.7)	309 (18.8)
その他の痛み	235 (38.6)	217 (21.0)	452 (27.5)
遊び・快感目的	1 (.2)	— —	1 (.1)
その他	52 (8.5)	54 (5.2)	106 (6.5)
合計	609 (109.9)	1033 (124.6)	1643 (119.1)

表27 鎮痛薬の使用理由（複数回答）（％） 全体の中には、性別不明者1名を含む

	男 性	女 性	全 体
必要な時は心配せずに使っている	664 (37.2)	517 (25.8)	1183 (31.2)
必要な時は心配もあるがどちらか といえば使っている	195 (10.9)	438 (21.9)	633 (16.7)
必要な時でも心配だからどちらか というとならない	371 (20.8)	548 (27.4)	920 (24.3)
必要な時でも心配だからとにかく 使わない	295 (16.5)	263 (13.1)	558 (14.7)
無回答	258 (14.5)	236 (11.8)	494 (13.0)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表28 鎮痛薬使用に関する実情・心情（％） 全体の中には、性別不明者3名を含む

	男 性	女 性	全 体
一度も飲んでいない	1584 (88.8)	1726 (86.2)	3313 (87.5)
1年間で数回（年間5回以内）	29 (1.6)	72 (3.6)	101 (2.7)
2ヶ月に1回程度（年間約6-11回）	2 (.1)	12 (.6)	14 (.4)
月に1-2回程度（年間約12-24回）	9 (.5)	14 (.7)	23 (.6)
月に数回程度（年間約25-51回）	8 (.4)	5 (.2)	13 (.3)
週に1-2回程度	12 (.7)	12 (.6)	24 (.6)
週に3-6回程度	5 (.3)	22 (1.1)	27 (.7)
ほとんど毎日	36 (2.0)	34 (1.7)	70 (1.8)
無回答	98 (5.5)	105 (5.2)	203 (5.4)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表29 過去1年間の精神安定薬（抗不安薬）の使用頻度（％） 全体の中には、性別不明者3名を含む

	男 性	女 性	全 体
医師・医院・病院	87 (88.8)	155 (96.9)	242 (93.8)
薬剤師・薬局	9 (9.2)	8 (5.0)	17 (6.6)
家族・常備薬	4 (4.1)	5 (3.1)	9 (3.5)
友人・知人	1 (1.0)	1 (.6)	2 (.8)
愛人・知人	1 (1.0)	— —	1 (.4)
その他	— —	— —	— —
合計	98 (104.1)	160 (105.6)	258 (105.0)

表30 精神安定薬の入手先（複数回答）（%）

	男 性	女 性	全 体
不眠改善	46 (48.4)	89 (57.1)	135 (53.8)
不安解消	19 (20.0)	36 (23.1)	55 (21.9)
ストレス軽減	18 (18.9)	27 (17.3)	45 (17.9)
高血圧の治療	27 (28.4)	23 (14.7)	50 (19.9)
遊び・快感目的	1 (1.1)	— —	1 (.4)
その他)	7 (7.4)	20 (12.8)	27 (10.8)
合計	95 (124.2)	156 (125.0)	251 (124.7)

表31 精神安定薬の使用理由（複数回答）（%）

	男 性	女 性	全 体
必要な時には心配せず使っている	255 (14.3)	162 (8.1)	417 (11.0)
必要な時は心配もあるがどちらか というに使っている	107 (6.0)	145 (7.2)	252 (6.7)
必要な時でも心配なのでどちらか というに使わない	315 (17.7)	348 (17.4)	664 (17.5)
必要な時でも心配だからとにかく 使わない	792 (44.4)	1030 (51.4)	1824 (48.2)
無回答	314 (17.6)	317 (15.8)	631 (16.7)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表32 精神安定薬使用の実情・心情（%）

全体の中には、性別不明者3名を含む

	男 性	女 性	全 体
一度も飲んでいない	1588 (89.1)	1764 (88.1)	3355 (88.6)
1年間で数回（年間5回以内）	36 (2.0)	66 (3.3)	102 (2.7)
2ヶ月に1回程度（年間約6-11回）	7 (.4)	11 (.5)	18 (.5)
月に1-2回程度（年間約12-24回）	7 (.4)	10 (.5)	17 (.4)
月に数回程度（年間約25-51回）	3 (.2)	7 (.3)	10 (.3)
週に1-2回程度	3 (.2)	12 (.6)	15 (.4)
週に3-6回程度	9 (.5)	8 (.4)	17 (.4)
ほとんど毎日	23 (1.3)	17 (.8)	40 (1.1)
無回答	107 (6.0)	107 (5.3)	214 (5.6)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表33 過去1年間の睡眠薬使用頻度（%）

全体の中には、性別不明者3名を含む

	男 性	女 性	全 体
医師・医院・病院	74 (87.1)	113 (91.9)	187 (89.9)
薬剤師・薬局	6 (7.1)	5 (4.1)	11 (5.3)
家族・常備薬	3 (3.5)	9 (7.3)	12 (5.8)
友人・知人	4 (4.7)	3 (2.4)	7 (3.4)
愛人・知人	1 (1.2)	— —	1 (.5)
その他	— —	1 (.8)	1 (.5)
合計	85 (103.5)	123 (106.5)	208 (105.3)

表34 睡眠薬の入手先（複数回答）（%）

	男 性	女 性	全 体
不眠改善	68 (82.9)	103 (85.1)	171 (84.2)
不安解消	10 (12.2)	8 (6.6)	18 (8.9)
ストレス軽減	3 (3.7)	7 (5.8)	10 (4.9)
高血圧の治療	13 (15.9)	5 (4.1)	18 (8.9)
遊び・快感目的	— —	— —	— —
その他	3 (3.7)	13 (10.7)	16 (7.9)
合計	82 (118.3)	121 (112.4)	203 (114.8)

表35 睡眠薬の使用理由（複数回答）（%）

	男性	女性	全体
必要な時は心配せず使っている	215 (12.1)	136 (6.8)	352 (9.3)
必要な時は心配もあるがどちらか というに使っている	94 (5.3)	119 (5.9)	213 (5.6)
必要な時でも心配だからどちらか というに使わない	313 (17.6)	340 (17.0)	654 (17.3)
必要な時でも心配だからとにかく 使わない	833 (46.7)	1056 (52.7)	1890 (49.9)
無回答	328 (18.4)	351 (17.5)	679 (17.9)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表36 睡眠薬使用の実情・心情（%）

全体の中には、性別不明者3名を含む

	男 性	女 性	全 体
有機溶剤	475 (28.4)	240 (12.8)	717 (20.2)
シンナー	1503 (89.7)	1638 (87.1)	3144 (88.4)
トルエン	853 (50.9)	637 (33.9)	1493 (42.0)
大 麻	1535 (91.6)	1669 (88.8)	3207 (90.1)
マリファナ	1395 (83.3)	1509 (80.3)	2907 (81.7)
ハシッシ	314 (18.7)	180 (9.6)	494 (13.9)
ハッパ	273 (16.3)	260 (13.8)	534 (15.0)
覚せい剤	1492 (89.1)	1691 (89.9)	3186 (89.5)
スピード	559 (33.4)	552 (29.4)	1113 (31.3)
エス	202 (12.1)	199 (10.6)	402 (11.3)
ヒロポン	969 (57.9)	798 (42.4)	1768 (49.7)
麻 葉	1380 (82.4)	1548 (82.3)	2931 (82.4)
モルヒネ	1388 (82.9)	1540 (81.9)	2931 (82.4)
コカイン	1357 (81.0)	1485 (79.0)	2845 (80.0)
クラック	281 (16.8)	140 (7.4)	421 (11.8)
ヘロイン	1288 (76.9)	1299 (69.1)	2590 (72.8)
L S D	795 (47.5)	593 (31.5)	1390 (39.1)
アシッド	77 (4.6)	37 (2.0)	114 (3.2)
全て知らない	57 (3.4)	59 (3.1)	116 (3.3)
合計	1675 (966.7)	1880 (855.0)	3558 (907.9)

表37 知っている違法性薬物名（複数回答）（％）全体の中には、性別不明者3名を含む
左端のカッコは同じものであることを意味している。

	男 性	女 性	全 体
よく知っている	1087 (61.0)	1080 (53.9)	2168 (57.2)
だいたい知っている	554 (31.1)	729 (36.4)	1285 (33.9)
知らない	66 (3.7)	97 (4.8)	163 (4.3)
無回答	76 (4.3)	96 (4.8)	172 (4.5)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表38 薬物乱用を繰り返すと依存状態になることを知っていますか？（％）

全体の中には、性別不明者3名を含む

	男 性	女 性	全 体
以前より増えている	323 (18.1)	452 (22.6)	776 (20.5)
変わらない	183 (10.3)	182 (9.1)	365 (9.6)
以前より減っている	186 (10.4)	135 (6.7)	323 (8.5)
わからない	1004 (56.3)	1129 (56.4)	2133 (56.3)
シナ遊びという言葉を知らない	22 (1.2)	33 (1.6)	55 (1.5)
無回答	65 (3.6)	71 (3.5)	136 (3.6)
合 計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表39 「シンナー遊び」をする人数の印象（％）

全体の中には、性別不明者3名を含む

	男 性	女 性	全 体
知らない	1276 (71.6)	1543 (77.1)	2821 (74.5)
知っている	379 (21.3)	329 (16.4)	709 (18.7)
無回答	41 (2.3)	26 (1.3)	67 (1.8)
回答非該当	87 (4.9)	104 (5.2)	191 (5.0)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表40 「シンナー遊び」をこれまでに行ったことのある人を知っていますか？ (%)

回答非該当：表39で「シナ-遊びという言葉を知らない」と回答したか、無回答だった者
全体の中には、性別不明者3名を含む

	男 性	女 性	全 体
1～5人	263 (69.4)	251 (76.3)	515 (72.6)
6～10人	48 (12.7)	39 (11.9)	87 (12.3)
11～15人	2 (.5)	1 (.3)	3 (.4)
16～20人	4 (1.1)	5 (1.5)	9 (1.3)
21～25人	0 (0)	0 (0)	0 (0)
26～30人	3 (.8)	4 (1.2)	7 (1.0)
31～50人	3 (.8)	0 (0)	3 (.4)
51人以上	4 (1.1)	0 (0)	4 (.6)
無回答	52 (13.7)	29 (8.8)	81 (11.4)
合計	379 (100.0)	329 (100.0)	709 (100.0)

表41 「シンナー遊び」を行ったことのある人を何人知っているか (%)

シンナー遊びという言葉を知っており、表39で「知っている」と回答した者について
全体の中には、性別不明者1名を含む

	男 性	女 性	全 体
知らない	1598 (89.6)	1820 (90.9)	3420 (90.3)
知っている	49 (2.7)	40 (2.0)	90 (2.4)
無回答	49 (2.7)	38 (1.9)	87 (2.3)
回答非該当	87 (4.9)	104 (5.2)	191 (5.0)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表42 この1年間でシンナー遊びをした人を知っていますか？ (%)

回答非該当：表39で「シナ-遊びという言葉を知らない」と回答したか、無回答だった者
全体の中には、性別不明者3名を含む

	男 性	女 性	全 体
1～5人	37 (75.5)	33 (82.5)	71 (78.9)
6～10人	2 (4.1)	3 (7.5)	5 (5.6)
51人以上	1 (2.0)	—	1 (1.1)
無回答	9 (18.4)	4 (10.0)	13 (14.4)
合計	49 (100.0)	40 (100.0)	90 (100.0)

表43 この1年間でシンナー遊びをした人を何人知っているか (%)

表42で「知っている」と回答した者について

全体の中には、性別不明者1名を含む

	男性	女性	全体
ない	1649 (92.5)	1875 (93.7)	3527 (93.1)
1年間より前にあった	62 (3.5)	34 (1.7)	96 (2.5)
1年間にあった	2 (.1)	—	2 (.1)
無回答	70 (3.9)	93 (4.6)	163 (4.3)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表44 「シンナー遊び」に誘われた経験 (%)

無回答者には、回答非該当者:表39で「シナ-遊びという言葉を知らない」と回答した者を含む
全体の中には、性別不明者3名を含む

	男性	女性	全体
ない	1677 (94.1)	1894 (94.6)	3574 (94.4)
1年間より前にあった	36 (2.0)	19 (.9)	55 (1.5)
1年間にあった	2 (.1)	—	2 (.1)
無回答	68 (3.8)	89 (4.4)	157 (4.1)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表45 「シンナー遊び」経験 (%)

無回答者には、回答非該当者:表39で「シナ-遊びという言葉を知らない」と回答した者を含む
全体の中には、性別不明者3名を含む

	男性	女性	全体
知っている	1307 (73.3)	1367 (68.3)	2677 (70.7)
知らない	423 (23.7)	570 (28.5)	993 (26.2)
無回答	53 (3.0)	65 (3.2)	118 (3.1)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表46 「シンナー遊び」で死亡することがあるのを知っていますか? (%)

全体の中には、性別不明者3名を含む

	男性	女性	全体
知っている	1023 (57.4)	1122 (56.0)	2147 (56.7)
知らない	712 (39.9)	822 (41.1)	1535 (40.5)
無回答	48 (2.7)	58 (2.9)	106 (2.8)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表47 「シンナー遊び」で歯が味口になりやすいのを知っていますか? (%)

全体の中には、性別不明者3名を含む

	男性	女性	全体
知っている	965 (54.1)	1047 (52.3)	2014 (53.2)
知らない	763 (42.8)	904 (45.2)	1668 (44.0)
無回答	55 (3.1)	51 (2.5)	106 (2.8)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表48 「シンナー遊び」を繰り返すと多発神経炎になることがあるのを知っていますか? (%)

全体の中には、性別不明者3名を含む

	男性	女性	全体
知っている	1380 (77.4)	1539 (76.9)	2921 (77.1)
知らない	356 (20.0)	406 (20.3)	763 (20.1)
無回答	47 (2.6)	57 (2.8)	104 (2.7)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表49 「シンナー遊び」を繰り返すと精神病状態になることがあるのを知っていますか？ (%)

全体の中には、性別不明者3名を含む

	男性	女性	全体
知っている	1105 (62.0)	1263 (63.1)	2370 (62.6)
知らない	627 (35.2)	681 (34.0)	1309 (34.6)
無回答	51 (2.9)	58 (2.9)	109 (2.9)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表50 「シンナー遊び」を繰り返すと無動機症候群になるのを知っていますか？ (%)

全体の中には、性別不明者3名を含む

	男性	女性	全体
知っている	811 (45.5)	879 (43.9)	1691 (44.6)
知らない	919 (51.5)	1059 (52.9)	1979 (52.2)
無回答	53 (3.0)	64 (3.2)	118 (3.1)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表51 「シンナー遊び」を繰り返すとフラッシュバックをおこすことがあるのを知っていますか？ (%)

全体の中には、性別不明者3名を含む

	男性	女性	全体
以前より増えている	423 (23.7)	531 (26.5)	957 (25.3)
変わらない	137 (7.7)	118 (5.9)	255 (6.7)
以前より減っている	19 (1.1)	14 (.7)	33 (.9)
わからない	1118 (62.7)	1223 (61.1)	2341 (61.8)
大麻という言葉知らない	31 (1.7)	55 (2.7)	86 (2.3)
無回答	55 (3.1)	61 (3.0)	116 (3.1)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表52 大麻を吸っている人数の印象 (%) 全体の中には、性別不明者3名を含む

	男性	女性	全体
知らない	1588 (89.1)	1810 (90.4)	3400 (89.8)
知っている	96 (5.4)	56 (2.8)	153 (4.0)
無回答	13 (.7)	20 (1.0)	33 (.9)
回答非該当	86 (4.8)	116 (5.8)	202 (5.3)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表53 これまでに大麻を吸ったことのある人を知っていますか？ (%)

回答非該当者:表52で「大麻という言葉知らない」と回答した者を含む。全体の中には、性別不明者3名を含む

	男 性	女 性	全 体
1～5人	62 (64.6)	44 (78.6)	107 (69.9)
6～10人	10 (10.4)	4 (7.1)	14 (9.2)
11～15人	3 (3.1)	0 (0)	3 (2.0)
16～20人	2 (2.1)	1 (1.8)	3 (2.0)
21～25人	0 (0)	0 (0)	0 (0)
26～30人	2 (2.1)	0 (0)	2 (1.3)
31～50人	0 (0)	0 (0)	0 (0)
51人以上	0 (0)	0 (0)	0 (0)
無回答	17 (17.7)	7 (12.5)	24 (15.7)
合計	96 (100.0)	56 (100.0)	153 (100.0)

表54 過去に大麻を吸ったことのある人を何人知っているか (%)

全体の中には、性別不明者1名を含む

	男 性	女 性	全 体
知らない	1649 (92.5)	1847 (92.3)	3498 (92.3)
知っている	25 (1.4)	11 (.5)	37 (1.0)
無回答	23 (1.3)	28 (1.4)	51 (1.3)
回答非該当	86 (4.8)	116 (5.8)	202 (5.3)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表55 この1年間で大麻使用をした人を知っていますか? (%)

回答非該当者：表52で「大麻という言葉を知らない」と回答した者および無回答だった者

全体の中には、性別不明者3名を含む

	男 性	女 性	全 体
1～5人	12 (48.0)	10 (90.9)	23 (62.2)
6～10人	1 (4.0)	0 (0)	1 (2.7)
11～15人	0 (0)	0 (0)	0 (0)
16～20人	0 (0)	0 (0)	0 (0)
21～25人	0 (0)	0 (0)	0 (0)
26～30人	1 (4.0)	—	1 (2.7)
31～50人	0 (0)	0 (0)	0 (0)
51人以上	0 (0)	0 (0)	0 (0)
無回答	11 (44.0)	1 (9.1)	12 (32.4)
合計	25 (100.0)	11 (100.0)	37 (100.0)

表56 過去1年間に大麻を使用した人を何人知っているか

全体の中には、性別不明者1名を含む

	男 性	女 性	全 体
な い	1672 (93.8)	1878 (93.8)	3552 (93.8)
1年間より前にあった	35 (2.0)	16 (.8)	52 (1.4)
1年間にあった	3 (.2)	—	3 (.2)
無回答	73 (4.1)	108 (5.4)	181 (4.8)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表57 大麻使用に誘われた経験 (%) 全体の中には、性別不明者3名を含む

無回答者には、表52で「大麻という言葉を知らない」と回答した者を含む

	男 性	女 性	全 体
な い	1688 (94. 7)	1886 (94. 2)	3577 (94. 4)
1年間より前にあった	21 (1. 2)	9 (. 4)	30 (. 8)
1年間にあった	2 (. 1)	— —	2 (. 1)
無回答	72 (4. 0)	107 (5. 3)	179 (4. 7)
合計	1783 (100. 0)	2002 (100. 0)	3788 (100. 0)

表58 大麻使用経験 (%)

全体の中には、性別不明者3名を含む

	男 性	女 性	全 体
吸うべきではない	1630 (91. 4)	1873 (93. 6)	3506 (92. 6)
麻薬・覚せい剤と違って少々な らかまわない	46 (2. 6)	12 (. 6)	58 (1. 5)
全くかまわない	26 (1. 5)	9 (. 4)	35 (. 9)
無回答	81 (4. 5)	108 (5. 4)	189 (5. 0)
合計	1783 (100. 0)	2002 (100. 0)	3788 (100. 0)

表59 大麻を吸うことをどう思いますか? (%)

全体の中には、性別不明者3名を含む

	男 性	女 性	全 体
知っている	1239 (69. 5)	1403 (70. 1)	2644 (69. 8)
知らない	486 (27. 3)	537 (26. 8)	1023 (27. 0)
無回答	58 (3. 3)	62 (3. 1)	121 (3. 2)
合計	1783 (100. 0)	2002 (100. 0)	3788 (100. 0)

表60 大麻を吸うと精神病状態や、無動機症候群になることを知っていますか? (%)

全体の中には、性別不明者3名を含む

	男 性	女 性	全 体
以前より増えている	724 (40. 6)	870 (43. 5)	1597 (42. 2)
変わらない	92 (5. 2)	67 (3. 3)	159 (4. 2)
以前より減っている	12 (. 7)	6 (. 3)	18 (. 5)
わからない	889 (49. 9)	975 (48. 7)	1864 (49. 2)
覚せい剤という言葉を知らない	14 (. 8)	23 (1. 1)	37 (1. 0)
無回答	52 (2. 9)	61 (3. 0)	113 (3. 0)
合 計	1783 (100. 0)	2002 (100. 0)	3788 (100. 0)

表61 覚せい剤使用者人数の印象 (%)

全体の中には、性別不明者3名を含む

	男 性	女 性	全 体
知らない	1600 (89. 7)	1819 (90. 9)	3421 (90. 3)
知っている	103 (5. 8)	85 (4. 2)	189 (5. 0)
無回答	14 (. 8)	14 (. 7)	28 (. 7)
回答非該当	66 (3. 7)	84 (4. 2)	150 (4. 0)
合計	1783 (100. 0)	2002 (100. 0)	3788 (100. 0)

表62 これまでに覚せい剤を使用したことのある人を知っていますか? (%)

回答非該当：表61で「覚せい剤という言葉を知らない」と回答した者および無回答だった者

全体の中には、性別不明者3名を含む

	男 性	女 性	全 体
1～5人	78 (75.7)	69 (81.2)	148 (78.3)
6～10人	4 (3.9)	3 (3.5)	7 (3.7)
11～15人	2 (1.9)	— —	2 (1.1)
16～20人	2 (1.9)	1 (1.2)	3 (1.6)
26～30人	3 (2.9)	— —	3 (1.6)
51人以上	1 (1.0)	— —	1 (.5)
無回答	13 (12.6)	12 (14.1)	25 (13.2)
合計	103 (100.0)	85 (100.0)	189 (100.0)

表63 これまでに覚せい剤を使用した人を何人知っていますか？ (%)

全体の中には、性別不明者1名を含む

	男 性	女 性	全 体
知らない	1672 (93.8)	1880 (93.9)	3554 (93.8)
知っている	33 (1.9)	24 (1.2)	58 (1.5)
無回答	12 (.7)	14 (.7)	26 (.7)
回答非該当	66 (3.7)	84 (4.2)	150 (4.0)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表64 この1年に覚せい剤を使用した人を知っていますか？ (%)

回答非該当:表61で「覚せい剤という言葉を知らない」と回答 および無回答だった者

全体の中には、性別不明者3名を含む

	男 性	女 性	全 体
1～5人	22 (66.7)	21 (87.5)	44 (75.9)
6～10人	1 (3.0)	— —	1 (1.7)
16～20人	— —	1 (4.2)	1 (1.7)
無回答	10 (30.3)	2 (8.3)	12 (20.7)
合計	33 (100.0)	24 (100.0)	58 (100.0)

表65 この1年に覚せい剤を使用した人を何人知っていますか？ (%)

回答該当者:表64で「知っている」に回答した者

全体の中には、性別不明者1名を含む

	男 性	女 性	全 体
な い	1709 (95.8)	1912 (95.5)	3624 (95.7)
1年間より前にあった	19 (1.1)	8 (.4)	27 (.7)
1年間にあった	2 (.1)	1 (.0)	3 (.1)
無回答	53 (3.0)	81 (4.0)	134 (3.5)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表66 覚せい剤使用に誘われたことがありますか？ (%)

全体の中には、性別不明者3名を含む

	男 性	女 性	全 体
な い	1720 (96.5)	1921 (96.0)	3644 (96.2)
1年間より前にあった	9 (.4)	3 (.1)	12 (.3)
1年間にあった	2 (.1)	1 (.0)	3 (.1)
無回答	52 (2.9)	77 (3.8)	129 (3.4)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表67 覚せい剤使用経験 (%)

全体の中には、性別不明者3名を含む

	男 性	女 性	全 体
知っている	1197 (67.1)	1340 (66.9)	2539 (67.0)
知らない	522 (29.3)	588 (29.4)	1110 (29.3)
無回答	64 (3.6)	74 (3.7)	139 (3.7)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表68 覚せい剤を使うと精神病状態になりやすく、フラッシュバックがある

ことを知っていますか？ (%) 全体の中には、性別不明者3名を含む

	男性	女性	全体
以前より増えている	306 (17.2)	336 (16.8)	644 (17.0)
変わらない	144 (8.1)	102 (5.1)	246 (6.5)
以前より減っている	33 (1.9)	32 (1.6)	65 (1.7)
わからない	1159 (65.0)	1319 (65.9)	2479 (65.4)
ヘロインという言葉を知らない	68 (3.8)	144 (7.2)	212 (5.6)
無回答	73 (4.1)	69 (3.4)	142 (3.7)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表69 ヘロイン使用者数の印象 (%)

全体の中には、性別不明者3名を含む

	男 性	女 性	全 体
知らない	1613 (90.5)	1769 (88.4)	3385 (89.4)
知っている	16 (.9)	5 (.2)	21 (.6)
無回答	13 (.7)	15 (.7)	28 (.7)
回答非該当	141 (7.9)	213 (10.6)	354 (9.3)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表70 これまでにヘロインを使用した人を知っていますか？ (%)

回答非該当：表69で「ヘロインという言葉を知らない」と回答した者および無回答だった者

全体の中には、性別不明者3名を含む

	男 性	女 性	全 体
1～5人	9 (56.3)	5 (100.0)	14 (66.7)
6～10人	3 (18.8)	—	3 (14.3)
16～20人	1 (6.3)	—	1 (4.8)
無回答	3 (18.8)	—	3 (14.3)
合計	16 (100.0)	5 (100.0)	21 (100.0)

表71 これまでにヘロインを使用した人を何人知っていますか？ (%)

回答該当者…表70で「知っている」に回答した者

	男 性	女 性	全 体
知らない	1622 (91.0)	1772 (88.5)	3397 (89.7)
知っている	4 (.2)	2 (.1)	6 (.2)
無回答	16 (.9)	15 (.7)	31 (.8)
回答非該当	141 (7.9)	213 (10.6)	354 (9.3)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表72 過去1年にヘロインを使用した人を知っていますか？ (%)

回答非該当：表69で「ヘロインという言葉を知らない」と回答した者および無回答だった者
全体の中には、性別不明者3名を含む

	男 性	女 性	全 体
1～5人	1 (25.0)	2 (100.0)	3 (50.0)
6～10人	1 (25.0)	— —	1 (16.7)
無回答	2 (50.0)	— —	2 (33.3)
合計	4 (100.0)	2 (100.0)	6 (100.0)

表73 過去1年にヘロインを使用した人を何人知っていますか？ (%)

回答該当者…表72で「知っている」に回答した者

	男 性	女 性	全 体
な い	1668 (93.6)	1814 (90.6)	3485 (92.0)
1年間より前にあった	5 (.3)	1 (.0)	6 (.2)
1年間にあった	1 (.1)	— —	1 (.0)
無回答	109 (6.1)	187 (9.3)	296 (7.8)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表74 ヘロイン使用に誘われたことがありますか？ (%) 全体の中には、性別不明者3名を含む

無回答者には、回答非該当者（表69で「ヘロインと言う言葉を知らない」と回答したもの及び無回答者を含む）

	男 性	女 性	全 体
な い	1671 (93.7)	1809 (90.4)	3483 (91.9)
1年間より前にあった	2 (.1)	— —	2 (.1)
1年間にあった	1 (.1)	— —	1 (.0)
無回答	109 (6.1)	193 (9.6)	302 (8.0)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表75 ヘロイン使用経験 (%) 全体の中には、性別不明者3名を含む

	男 性	女 性	全 体
以前より増えている	307 (17.2)	359 (17.9)	668 (17.6)
変わらない	153 (8.6)	104 (5.2)	257 (6.8)
以前より減っている	23 (1.3)	18 (.9)	41 (1.1)
わからない	1175 (65.9)	1304 (65.1)	2480 (65.5)
コカインという言葉を知らない	66 (3.7)	131 (6.5)	197 (5.2)
無回答	59 (3.3)	86 (4.3)	145 (3.8)
合 計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表76 コカイン使用人数の印象 (%) 全体の中には、性別不明者3名を含む

	男 性	女 性	全 体
知らない	1626 (91. 2)	1762 (88. 0)	3391 (89. 5)
知っている	21 (1. 2)	13 (. 6)	34 (. 9)
無回答	11 (. 6)	10 (. 5)	21 (. 6)
回答非該当	125 (7. 0)	217 (10. 8)	342 (9. 0)
合計	1783 (100. 0)	2002 (100. 0)	3788 (100. 0)

表77 コカインをこれまでに使用した人を知っていますか？（％）全体の中には、性別不明者3名を含む
回答非該当：表76「コカインという言葉を知らない」と回答した者および無回答だった者

	男 性	女 性	全 体
1～5人	12 (57. 1)	10 (76. 9)	22 (64. 7)
6～10人	3 (14. 3)	— —	3 (8. 8)
11～15人	— —	1 (7. 7)	1 (2. 9)
16～20人	1 (4. 8)	1 (7. 7)	2 (5. 9)
無回答	5 (23. 8)	1 (7. 7)	6 (17. 6)
合計	21 (100. 0)	13 (100. 0)	34 (100. 0)

表78 コカインをこれまでに使用した人を何人知っていますか？（％）

	男 性	女 性	全 体
知らない	1643 (92. 1)	1769 (88. 4)	3415 (90. 2)
知っている	4 (. 2)	4 (. 2)	8 (. 2)
無回答	11 (. 6)	12 (. 6)	23 (. 6)
回答非該当	125 (7. 0)	217 (10. 8)	342 (9. 0)
合計	1783 (100. 0)	2002 (100. 0)	3788 (100. 0)

表79 コカインを過去1年に使用した人を知っていますか？（％）全体の中には、性別不明者3名を含む
回答非該当：表76で「コカインという言葉を知らない」と回答した者および無回答だった者

	男 性	女 性	全 体
1～5人	1 (25. 0)	4 (100. 0)	5 (62. 5)
6～10人	1 (25. 0)	— —	1 (12. 5)
無回答	2 (50. 0)	— —	2 (25. 0)
合計	4 (100. 0)	4 (100. 0)	8 (100. 0)

表80 コカインを過去1年に使用した人を何人知っていますか？（％）

	男 性	女 性	全 体
な い	1681 (94. 3)	1837 (91. 8)	3521 (93. 0)
1年間より前にあった	10 (. 6)	3 (. 1)	13 (. 3)
1年間にあった	1 (. 1)	— —	1 (. 0)
無回答	91 (5. 1)	162 (8. 1)	253 (6. 7)
合計	1783 (100. 0)	2002 (100. 0)	3788 (100. 0)

表81 コカイン使用に誘われたことがありますか？（％）全体の中には、性別不明者3名を含む

	男 性	女 性	全 体
な い	1685 (94.5)	1835 (91.7)	3523 (93.0)
1年間より前にあった	4 (.2)	1 (.0)	5 (.1)
1年間にあった	1 (.1)	— —	1 (.0)
無回答	93 (5.2)	166 (8.3)	259 (6.8)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表82 コカイン使用経験 (%)

全体の中には、性別不明者3名を含む

	男 性	女 性	全 体
以前より増えている	214 (12.0)	245 (12.2)	460 (12.1)
変わらない	104 (5.8)	61 (3.0)	165 (4.4)
以前より減っている	18 (1.0)	12 (.6)	30 (.8)
わからない	1026 (57.5)	968 (48.4)	1995 (52.7)
LSDと言う言葉を知らない	359 (20.1)	637 (31.8)	997 (26.3)
無回答	62 (3.5)	79 (3.9)	141 (3.7)
合 計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表83 LSD使用者人数の印象 (%)

全体の中には、性別不明者3名を含む

	男 性	女 性	全 体
知らない	1328 (74.5)	1262 (63.0)	2592 (68.4)
知っている	21 (1.2)	12 (.6)	33 (.9)
無回答	13 (.7)	12 (.6)	25 (.7)
回答非該当	421 (23.6)	716 (35.8)	1138 (30.0)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表84 LSDをこれまでに使用した人を知っていますか? (%) 全体の中には、性別不明者3名を含む

回答非該当：表83で「LSDという言葉を知らない」と回答した者および無回答だった者

	男 性	女 性	全 体
1~5人	12 (57.1)	11 (91.7)	23 (69.7)
6~10人	2 (9.5)	1 (8.3)	3 (9.1)
16~20人	2 (9.5)	— —	2 (6.1)
無回答	5 (23.8)	— —	5 (15.2)
合計	21 (100.0)	12 (100.0)	33 (100.0)

表85 LSDをこれまでに使用した人を何人知っていますか? (%)

	男 性	女 性	全 体
知らない	1338 (75.0)	1271 (63.5)	2611 (68.9)
知っている	10 (.6)	3 (.1)	13 (.3)
回答非該当	421 (23.6)	716 (35.8)	1138 (30.0)
無回答	14 (.8)	12 (.6)	26 (.7)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表86 LSDを過去1年に使用した人を知っていますか? (%) 全体の中には、性別不明者3名を含む

回答非該当：表83で「LSDという言葉を知らない」と回答した者および無回答だった者

	男 性	女 性	全 体
1～5人	7 (70.0)	2 (66.7)	9 (69.2)
6～10人	— —	1 (33.3)	1 (7.7)
無回答	3 (30.0)	— —	3 (23.1)
合計	10 (100.0)	3 (100.0)	13 (100.0)

表87 LSDを過去1年に使用した人を何人知っていますか？ (%)

	男 性	女 性	全 体
な い	1400 (78.5)	1349 (67.4)	2751 (72.6)
1年間より前にあった	8 (.4)	2 (.1)	10 (.3)
1年間にあった	2 (.1)	— —	2 (.1)
無回答	373 (20.9)	651 (32.5)	1025 (27.1)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表88 LSD使用に誘われたことがありますか？ (%) 全体の中には、性別不明者3名を含む

	男 性	女 性	全 体
な い	1421 (79.7)	1355 (67.7)	2778 (73.3)
1年間前にあった	2 (.1)	— —	2 (.1)
1年間にあった	2 (.1)	— —	2 (.1)
無回答	358 (20.1)	647 (32.3)	1006 (26.6)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表89 LSD使用経験 (%) 全体の中には、性別不明者3名を含む

	男 性	女 性	全 体
簡単に手に入る	683 (38.3)	435 (21.7)	1121 (29.6)
少々苦勞するが何とか手に入る	333 (18.7)	335 (16.7)	668 (17.6)
ほとんど不可能	346 (19.4)	481 (24.0)	827 (21.8)
絶対不可能	259 (14.5)	514 (25.7)	773 (20.4)
シンナーという言葉を知らない	20 (1.1)	39 (1.9)	59 (1.6)
無回答	142 (8.0)	198 (9.9)	340 (9.0)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表90 有機溶剤入手の難易度 (%) 全体の中には、性別不明者3名を含む

	男 性	女 性	全 体
簡単に手に入る	53 (3.0)	38 (1.9)	92 (2.4)
少々苦勞するが何とか手に入る	228 (12.8)	156 (7.8)	384 (10.1)
ほとんど不可能	564 (31.6)	370 (18.5)	934 (24.7)
絶対不可能	799 (44.8)	1241 (62.0)	2042 (53.9)
大麻という言葉を知らない	41 (2.3)	69 (3.4)	110 (2.9)
無回答	98 (5.5)	128 (6.4)	226 (6.0)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表91 大麻入手の難易度 (%) 全体の中には、性別不明者3名を含む

	男 性	女 性	全 体
簡単に手に入る	60 (3.4)	48 (2.4)	108 (2.9)
少々苦勞するが何とか手に入る	219 (12.3)	153 (7.6)	373 (9.8)
ほとんど不可能	548 (30.7)	370 (18.5)	918 (24.2)
絶対不可能	833 (46.7)	1262 (63.0)	2097 (55.4)
覚せい剤という言葉を知らない	28 (1.6)	39 (1.9)	67 (1.8)
無回答	95 (5.3)	130 (6.5)	225 (5.9)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表92 覚せい剤入手の難易度 (%)

全体の中には、性別不明者3名を含む

	男 性	女 性	全 体
簡単に手に入る	38 (2.1)	30 (1.5)	68 (1.8)
少々苦勞するが何とか手に入る	175 (9.8)	128 (6.4)	303 (8.0)
ほとんど不可能	565 (31.7)	354 (17.7)	919 (24.3)
絶対不可能	845 (47.4)	1240 (61.9)	2088 (55.1)
ヘロインという言葉を知らない	66 (3.7)	118 (5.9)	184 (4.9)
無回答	94 (5.3)	132 (6.6)	226 (6.0)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表93 ヘロイン入手の難易度 (%)

全体の中には、性別不明者3名を含む

	男 性	女 性	全 体
簡単に手に入る	40 (2.2)	28 (1.4)	68 (1.8)
少々苦勞するが何とか手に入る	180 (10.1)	136 (6.8)	316 (8.3)
ほとんど不可能	560 (31.4)	359 (17.9)	919 (24.3)
絶対不可能	843 (47.3)	1252 (62.5)	2098 (55.4)
コカインという言葉を知らない	60 (3.4)	99 (4.9)	159 (4.2)
無回答	100 (5.6)	128 (6.4)	228 (6.0)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表94 コカイン入手の難易度 (%)

全体の中には、性別不明者3名を含む

	男 性	女 性	全 体
簡単に手に入る	41 (2.3)	27 (1.3)	68 (1.8)
少々苦勞するが何とか手に入る	161 (9.0)	97 (4.8)	259 (6.8)
ほとんど不可能	501 (28.1)	278 (13.9)	779 (20.6)
絶対不可能	728 (40.8)	991 (49.5)	1720 (45.4)
LSDという言葉を知らない	250 (14.0)	481 (24.0)	732 (19.3)
無回答	102 (5.7)	128 (6.4)	230 (6.1)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表95 LSD入手の難易度 (%)

全体の中には、性別不明者3名を含む

	男 性	女 性	全 体
法律で禁止なのですべきではない	1524 (85.5)	1739 (86.9)	3266 (86.2)
法律で禁止だが少々ならかまわない	18 (1.0)	3 (.1)	21 (.6)
法律で禁止だが法律で決める必要はなく個人の自由	72 (4.0)	38 (1.9)	110 (2.9)
大麻のことを知らないから判断できない	105 (5.9)	133 (6.6)	238 (6.3)
法律と関わりなくすべきではない	1 (.1)	3 (.1)	4 (.1)
無回答	63 (3.5)	86 (4.3)	149 (3.9)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表96 法律で禁止されている大麻を吸うことをどう思いますか？ (%)

全体の中には、性別不明者3名を含む

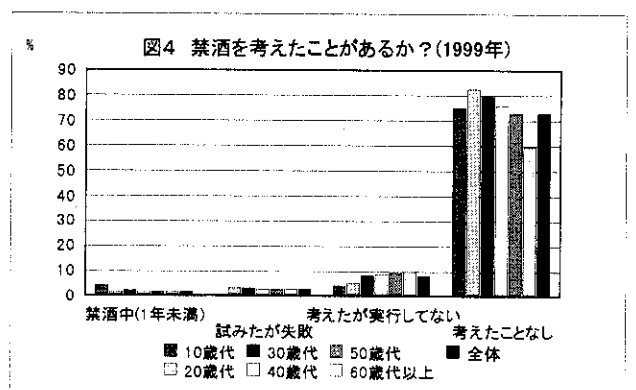
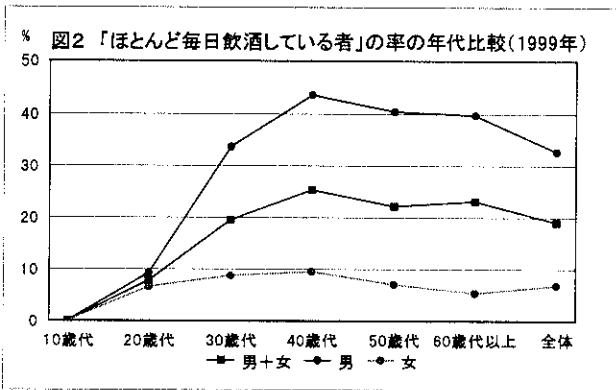
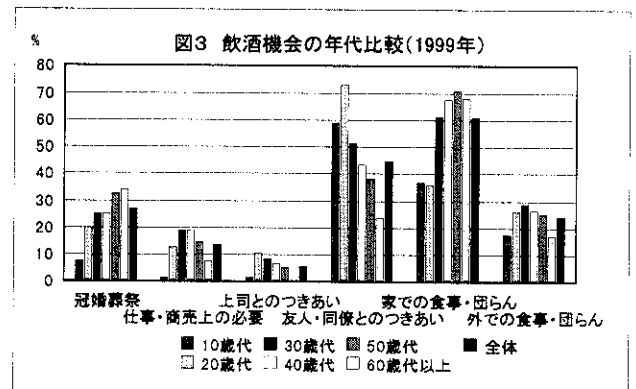
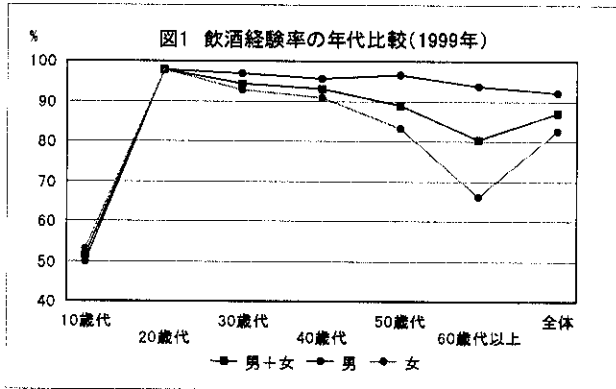
	男 性	女 性	全 体
法律で禁止なのですべきではない	1586 (89.0)	1788 (89.3)	377 (89.1)
法律で禁止だが少々ならかまわない	6 (.3)	1 (.0)	7 (.2)
法律で禁止だが法律で決める必要はなく個人の自由	43 (2.4)	33 (1.6)	76 (2.0)
覚せい剤のことを知らないから判断できない	84 (4.7)	98 (4.9)	182 (4.8)
法律と関わりなくすべきではない	2 (.1)	3 (.1)	5 (.1)
無回答	62 (3.5)	79 (3.9)	141 (3.7)
合計	1783 (100.0)	2002 (100.0)	3788 (100.0)

表97 法律で禁止されている覚せい剤を吸うことをどう思いますか？ (%)

全体の中には、性別不明者3名を含む

	男 性	女 性	全 体
内科	999 (66.2)	1200 (68.0)	2201 (67.2)
神経科・精神科	21 (1.4)	23 (1.3)	44 (1.3)
神経内科	24 (1.6)	23 (1.3)	47 (1.4)
外科	195 (12.9)	178 (10.1)	374 (11.4)
整形外科	280 (18.6)	283 (16.0)	563 (17.2)
皮膚科	196 (13.0)	301 (17.1)	497 (15.2)
脳神経外科	42 (2.8)	40 (2.3)	82 (2.5)
泌尿器科	72 (4.8)	40 (2.3)	112 (3.4)
産婦人科	1 (.1)	275 (15.6)	276 (8.4)
眼科	241 (16.0)	394 (22.3)	635 (19.4)
歯科	693 (46.0)	869 (49.2)	1563 (47.7)
耳鼻咽喉科	167 (11.1)	250 (14.2)	417 (12.7)
心療内科	11 (.7)	12 (.7)	23 (.7)
その他	30 (2.0)	29 (1.6)	59 (1.8)
合計	1508 (197.1)	1765 (221.9)	3276 (210.4)

表98 過去1年間に受診した診療科 (複数回答) (%) 全体の中には、性別不明者3名を含む



C. 研究結果

1. 回収結果 (表2～表6)

回答数(率)は3,790(75.8%)であり、事故の内訳は表2、表3の通りである。地区別標本数と回答数(率)は表4の通りである。このうち2通はほとんど白紙であったため、無効とし、残り3,788通を有効回答(75.8%)とした。

対象の性・年齢・学歴は表5に示した。

対象の職業・身分は表6に示した。

2. 調査結果 (表7～表9)

調査結果の男女別集計を表7～表9に示した。また、調査結果の中で重要と思われる項目については図1～図28に示した。

D. 考察

1. 飲酒習慣について

現在の飲酒習慣を表7に示した。頻度的には、男性では「ほとんど毎日飲んでいる」者が32.6%と最も多く、女性では「この1年間で数回飲んだ」者が23.4%と最も多かった。

表7をもとにして、飲酒生涯経験率(これまでに飲酒したことのある者の割合)を算出した(表8)。飲酒生涯経験率は、男性で92.3%、女性で82.7%、全体で87.2%であった。これは、ほとんどの者に飲酒の生涯経験率があることを意味しており、わが国の場合、「飲んだことがあるか、ないか」を基準に飲酒関連問題を論じても意味がなく、機会、頻度、量等の質的因子を絡めて論じる必要があることを示唆している(10)13)。

また、図1に飲酒経験率の年代別比較を示したが、男性では年代に関わらず高率であるが、女性では20歳代から年齢が進むに従って飲酒経験率が低くなっており、時代とともに女性の飲酒経験者が増えてきていることを示唆している。

飲酒1年経験率(この1年間で飲酒したことのある者の割合)を表9に示した。飲酒1年経験率は、男性では87.1%、女性では76.0%、全体では81.2%であった。

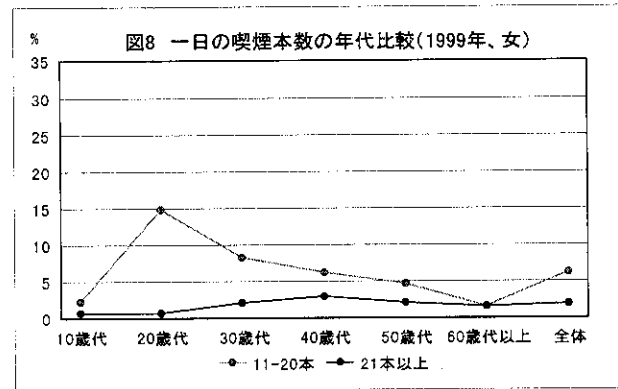
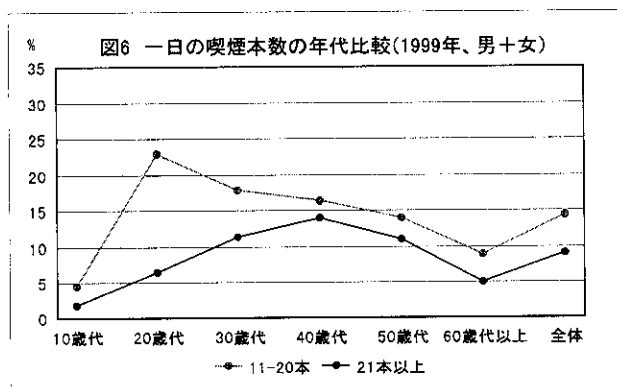
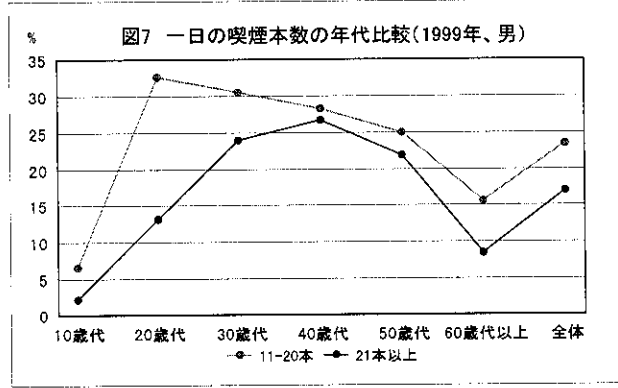
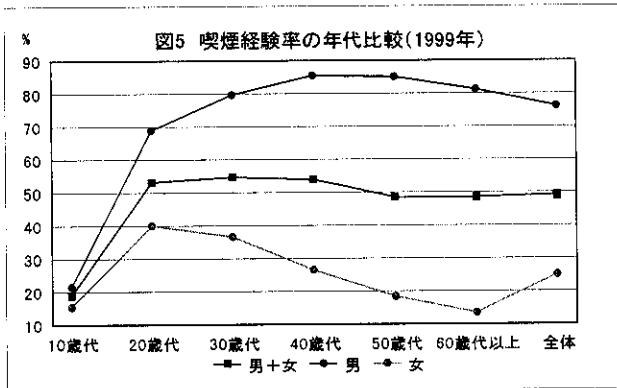


図2は、「ほとんど毎日飲酒している者」の割合を年代比較で示している。男女共に、20歳代、30歳代と進むに従って増加し、40歳代でピークを迎え(男性で43.5%、女性で9.5%、全体で25.3%)、その後、低下することが示されている。しかも、この特徴は男性で著明である。

さらに、過去1年間での主な飲酒機会を表10に示した。男女ともに、「家での食事や団らん」が最も多く(男性で64.2%、女性で57.8%、全体で61.1%)、「友人・同僚とのつきあい」で2番目に多かった(男性で48.7%、女性で41.3%、全体で45.1%)。「外での食事・団らん」での飲酒経験率は女性の方が高かった。

これを年代別に比較した者が図3である。「冠婚葬祭」時の飲酒は年代と共に増加している。「仕事・商売上の必要」「上司のつきあい」は20歳代で急増し、その後、年代と共に低下していた。「友人・同僚とのつきあい」は10歳代でも高率であるが、それが20歳代では更に高くなり、その後、年代と共に低下していた。「家での食事・団らん」での飲酒は、20歳代で最も低く、その後急増し、50歳代で最も高かった。「外での食事・団らん」での飲酒は、30歳代で最も高かった。

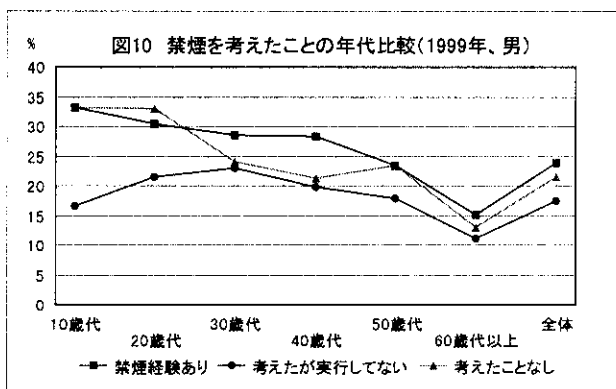
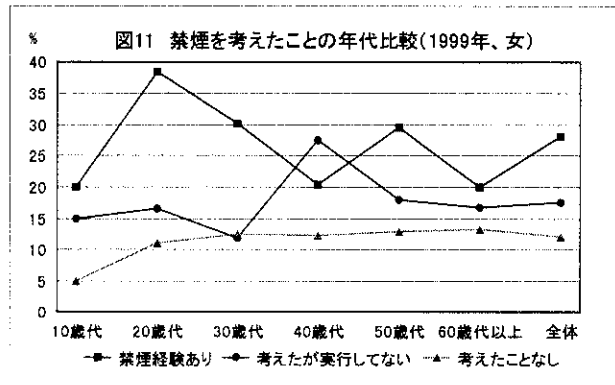
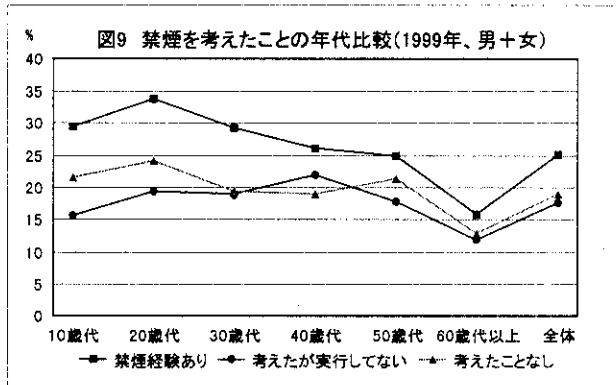
表11に飲酒生涯経験者の初飲年齢(初めての飲酒経験年齢)を示した。初飲年齢が18歳より前の者は、男性の50.5%、女性の36.7%、全体の43.6%であり、男女ともに18~19歳で飲酒する者が急激に増え、初飲年齢が20歳前の者が、男性では77.8%、女性では61.3%、全体で69.6%であった。また、初飲年齢上の年代的ピークは、男性では18~19歳の27.3%、女性では20歳以降の32.9%であり、全体では18~19歳の26.0%と20歳以降の26.4%が拮抗していた。この初飲は、冠婚葬祭や家族の団らんが深く関わっていることが中学生の調査より明らかになっている(10)13)。

表12に飲酒生涯経験者がそれなりに飲酒するようになった時期を示した。男女ともに18~19歳で急に増え、20歳以降で激増していた。

表13に現在禁酒中の者の禁酒期間を示した。禁酒期間が5年以上の者が男女とも最も多く、男性では49.3%、女性では46.7%、全体では48.3%であった。

表14に、飲酒生涯経験者の禁酒経験を示した。

禁酒を考えたことのない者が男女とも70%台と最も多いが、男性では「禁酒を考えたが実行したことがない」者が12.0%おり、「禁酒中」(1.9%)、



2. 喫煙習慣について

喫煙習慣を表16に示した。また、これをもとにした喫煙生涯経験率を表17に示した。喫煙の生涯経験率は、男性で76.4%、女性で25.1%、全体で49.3%であった。表16をもとに算出すると、調査時点での喫煙率は、男性で48.7%、女性では14.7%、全体で30.8%である。1995年の本調査5)によれば、それぞれ53.3%、13.9%、32.7%であり、1997年調査6)では、それぞれ51.7%、15.0%、32.7%であり、男性での喫煙者の減少傾向と女性での横這い傾向が示唆される。

喫煙生涯経験率を年代別に比較したものが図5である。全体では20歳代～40歳代が等しくピークであるが、男性では40歳代にピークがあり、女性では20歳代にピークがあると同時に、10歳代を除けば、年代が若いほど喫煙経験率が明らかに高くなっていることが明かである。このパターンは図1の飲酒生涯経験率のパターンと同様であり、時代と共に女性の喫煙率が高くなっていることを示している。

初めての喫煙年齢は、表18に示したが、男女共に中学校時代から増え始め、18歳前に男子では47%、女子では40%、全体では45%の者が喫煙経験を持つようになっていた。

一方、それなりに喫煙するようになったのは(表19)、男女共に18～19歳であり、その時までには男性では47%が、女性では39%が、全体では45%の者が、それなりに喫煙するようになっていた。

図6～図8は、一日の喫煙本数が11～20本と21本以上の者の割合を年代別に示したものである。男性では、11～20本/日の者の割合が、20歳代以降、明らかに低下して行くが、その反面、21本以上/

「禁酒を試みたが失敗した」(4.0%)を含めると、禁酒を考えたことがある者が男性では17.9%にのぼった(女性では8.3%、全体では13.1%)。図4は、この禁酒経験を年代別に比較したものである。「考えたが実行していない」者が年代と共に増加するが、基本的には、年代に関わらず、「(禁酒を)考えたことがない」者が圧倒的に多く、禁煙との違いが明かである(後述)。

表15に、禁酒した人及び禁酒を考えたことのある人の禁酒理由を示した。男女共に、最も多い理由は「健康上の不調は感じないが可能性が心配になったから」であり(男性45.2%、女性43.0%、全体44.6%)、次に「健康上の不調を感じたから」が拮抗していた(男性41.6%、女性34.4%、全体39.2%)。一方、自分の飲酒に問題を感じたり、問題を起こしたことが理由となった者は、男性では14.7%、女性では14.1%、全体では14.5%であった。いずれにしても、問題を感じる・起こすよりも、健康上の理由の方が明らかに多かった。

以上のように、飲酒に関しては、わが国のライフサイクルの影響が色濃く反映していると考えられる。

日の者の割合が年代と共に明らかに上昇し、40歳代でピーク(26.7%)となっている(図7)。それ以降は、喫煙率自体が低下していくものと推定できる。女性では、20歳代で11~20本/日喫煙する者の割合が突出して高い(14.8%)が、それ以降は年代と共に低下していく。21本以上/日の割合は、男性同様に40歳代にピーク(3.0%)があるが、その割合自体は相対的に低い。

禁煙者の禁煙期間は表20の通りである。禁煙期間が5年以上の者の割合が明らかに多いことは、禁酒(表13)と同様であるが、このことは、逆に5年以上禁煙していれば、禁煙が維持できやすいことを示唆している可能性がある。

これまでの禁煙経験は表21に示した。無回答の者を除くと、「過去に禁煙期間があった」者の割合は、男性では38.0%、女性では48.8%であり、全体では40.7%であった。また、「禁煙を考えたが実行したことがない」者の割合は、男性では27.8%、女性では30.2%、全体では28.5%に上った。これら両群を禁煙希望群とすると、禁煙希望群は、男性では65.8%、女性では79.0%、全体では69.2%に上る。これらの結果は、喫煙者といえども、禁煙を考えている者の方が多いことを示している。

図9~図11に、年代毎の禁煙経験を比較したが、男性では、年代と共に「禁煙経験あり」の者の割合が減少し、「考えたが実行していない」者の割合は30歳代にピーク(23.1%)となるが、以降、低下していつている(図10)。これは、禁煙する者は禁煙し、そうでない者は、半ばあきらめていつているとも推定できる。一方、女性では、20歳代に「禁煙経験あり」のピーク(38.5%)があるが、結婚・出産等の影響があるのかも知れない。

また、禁煙を考えた理由としては、「健康上の不調は感じないが、可能性が気になった」と答えた者の割合が、「健康上の不調」を挙げた者よりも明らかに多く、喫煙の健康に及ぼす影響についての認識が持たれていることを推測させる。ちなみに、禁酒を考えた理由としては、「健康上の不調は感じないが、可能性が気になった」を選んだ者が最も多かったのは禁煙と同じであるが、その割合は「健康上の不調」を挙げた者に接近していた(表15)。

3. 常備薬・医薬品について

1. 常備薬について

家庭の常備薬の常備状況については表23に示した。常備薬としては、①風邪薬、胃腸薬、②湿布薬、③鎮痛薬、ビタミン剤、④抗生物質、精神安定薬、睡眠薬と頻度的に多く、その割合、順序は1995年調査5)、1997年調査6)の結果とほとんど同じである。また、常用(週4回以上)している医薬品としては、男女共にビタミン剤が多く、その次に胃腸薬であり、その他は非常に割合が少なかった(表24)。

医薬品の中でも、鎮痛薬、精神安定薬、睡眠薬の中には依存形成性を有するものがあるため、それらの医薬品の使用頻度、入手先、使用理由、使用上の心情・実情を表25~36に示した。

2. 鎮痛薬使用について

鎮痛薬の使用頻度(表25)では、「1年間で数回」使用した者が男性で26.1%、女性で31.7%、全体で29.1%と最も多かった。表25をもとに、1年間の鎮痛薬の使用経験者率を(無回答者を含めて)算出すると、男性で35.4%、女性で52.4%、全体で44.4%であった。1995年調査5)では、それぞれ26.8%、42.3%、34.9%であり、1997年調査6)では、それぞれ27.1%、43.5%、35.5%であり、今回の方が全てにおいて1年経験率が高かった。これについては、質問形式が1999年調査から若干変更されたことによる可能性もあが、後述する精神安定薬使用状況から考えると、形式変更による変化はさほどないと考えられ、どういう訳か、1999年調査による鎮痛薬1年経験率は高いということになる。しかし、男性よりも女性での1年経験率が高いのは、毎回、同じである。

鎮痛薬の使用には、慢性疼痛に対する使用もあり、使用頻度のみから乱用・依存を判定することは困難であるが、表25の「週に3~6回」と「ほとんど毎日」とを常用的使用と定義した場合、男性では1.6%、女性では1.7%、全体では1.6%が、それに該当した。1995年調査5)、1997年調査6)では、「週数回以上使用した人」を常用者とした場合、1995年調査では、常用者は全体で3.0%であり、1997年調査では3.5%であった。これも、質問形式の変更による可能性は否定できないが、表25を見る限り、鎮痛薬の使用が社会問題化しているとは推

定できない。

また、鎮痛薬の入手先(表26)は、「薬剤師・薬局」と「医師・医院・病院」が拮抗しており、女性では使用理由として「生理痛」が多い(表27)こともあってか、「薬剤師・薬局」からの入手が最も多かった。

鎮痛薬の使用目的としては、「痛み」がほとんどであり、「遊び・快感目的」は男性で1人に過ぎない(表27)。

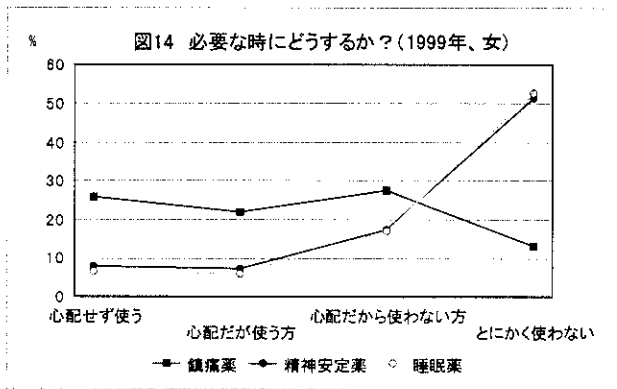
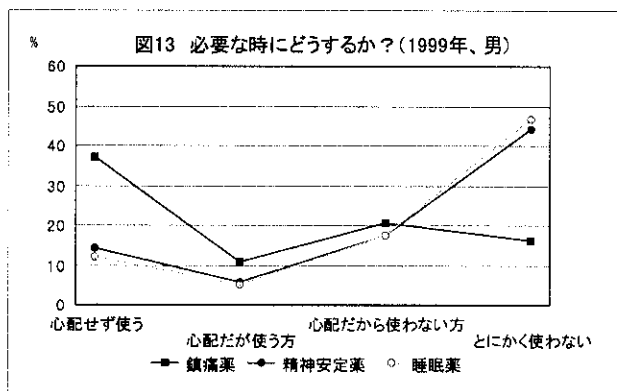
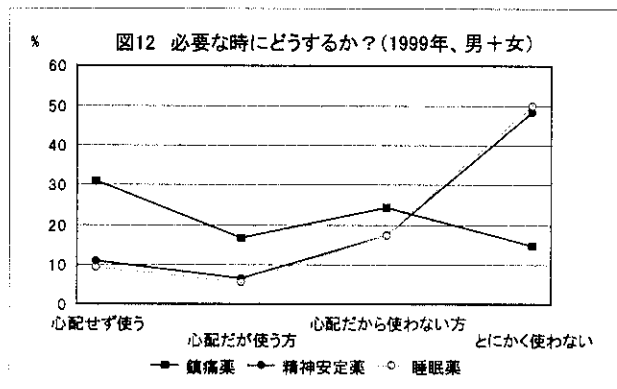
3. 精神安定薬使用について

精神安定薬の使用頻度(表29)では、男性では「ほとんど毎日」使用した者が2.0%と最も多く、次に「1年間で数回」使用した者が1.6%と多かった。女性では逆に「1年間で数回」使用した者が3.6%と最も多く、次に「ほとんど毎日」使用した者が1.7%と多かった。表29をもとに、1年間での精神安定薬の使用経験者率を(無回答者を含めて)算出すると、男性で5.7%、女性で8.5%、全体で7.2%であった。1995年調査5)では、それぞれ5.2%、6.9%、6.1%であり、1997年調査6)では、それぞれ4.8%、7.8%、6.4%であり、今回の方が全てにおいて1年経験率がわずかに高かった。評価には、質問形式が1999年調査から若干変更されたことも考慮せざるを得ないが、男性よりも女性での1年経験率が高いのは、毎回、同じである。

精神安定薬の使用には、高血圧及び慢性的精神疾患に対する使用もあり(表30)、使用頻度のみから乱用・依存を判定することは困難であるが、表29の「週に3~6回」と「ほとんど毎日」とを常用的使用と定義した場合、男性では2.3%、女性では2.8%、全体では2.6%が、それに該当した。1995年調査5)、1997年調査6)では、「週数回以上使用した人」を常用者とした場合、1995年調査では、常用者は全体で2.6%であり、1997年調査では2.4%であった。これも、質問形式の変更による影響を考慮する必要があるが、表29を見る限り、精神安定薬の使用が社会問題化しているとは推定できない。

また、精神安定薬の入手先(表30)は、ほとんど「医師・医院・病院」に限定されており、社会的管理が良好であることが推定できる。

精神安定薬の使用目的としては、男女共に「不眠改善」目的が最も多いが、男性では「高血圧の治療」が第2位であり、女性では「不安解消」が第2位であった(表31)。「遊び・快感目的」は男



性で1人に過ぎない(表31)。

4. 睡眠薬使用について

睡眠薬の使用頻度(表33)では、男女ともに、「1年間で数回」使用した者が、それぞれ2.0%、3.3%、全体で2.7%と最も多かった。第2位は男女共に「ほとんど毎日」使用した者であった。表33をもとに、1年間での睡眠薬の使用経験者率を(無回答者を含めて)算出すると、男性で4.9%、女性で6.5%、全体で5.8%であった。1995年調査5)では、それぞれ4.4%、5.0%、4.7%であり、1997年調査6)では、それぞれ4.2%、5.5%、4.9%であり、今回の方が全てにおいて1年経験率がわずかに高かった。評

価には、質問形式が1999年調査から若干変更されたことも考慮せざるを得ないが、男性よりも女性での1年経験率が高いのは、毎回、同じである。

睡眠薬の使用には、高血圧及び慢性的精神疾患に対する使用もあり（表30）、使用頻度のみから乱用・依存を判定することは困難であるが、表33の「週に3～6回」と「ほとんど毎日」とを常用的使用と定義した場合、男性では1.8%、女性では1.2%、全体では1.5%が、それに該当した。1995年調査5）、1997年調査6）では、「週数回以上使用した人」を常用者とした場合、1995年調査では、常用者は全体で1.6%であり、1997年調査では1.4%であった。これも、質問形式の変更による影響を考慮する必要があるが、ほとんど横這い状態と考えられる。

また、睡眠薬の入手先（表34）は、ほとんど「医師・医院・病院」に限定されており、社会的管理が良好であることが推定できる。

睡眠薬の使用目的としては、男女共に「不眠改善」目的が最も多いが、男性では「高血圧の治療」「不安解消」もそれなりにいた（表31）。「遊び・快感目的」の者は認められなかった（表31）。

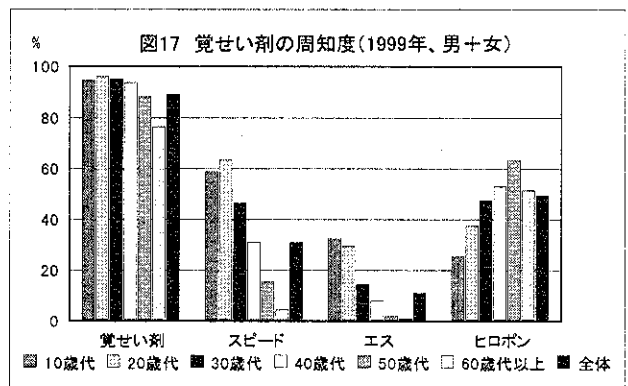
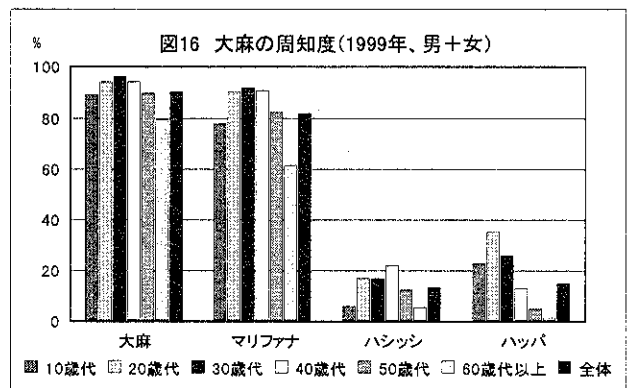
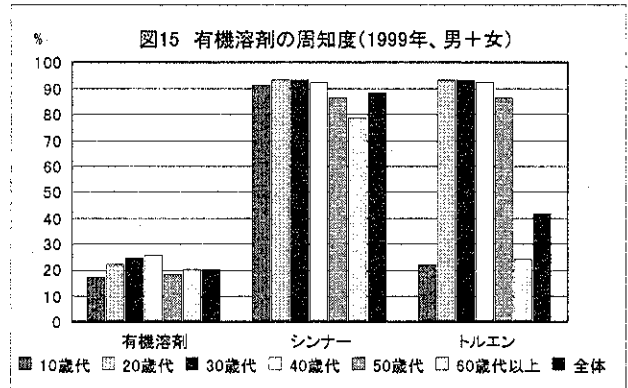
5. 鎮痛薬・精神安定薬・睡眠薬使用について的心情・実情

医薬品の中には、不適切な使用により依存に陥る医薬品があるのは確かである。そこで、そのような医薬品を使用する必要性が生じた場合、使用についての心情・実情を表28、表32、表36に示した。また、図12～図14にそのまとめを図示した。

鎮痛薬では、使う群（「心配せず使う」＋「心配だが使う」）は、男性では48.1%、女性では57.7%、全体では47.9%と、使わない群（「心配だから使わない」＋「とにかく使わない」）の37.3%、40.5%、39.0%よりも多かった。

一方、精神安定薬では、使わない群（「心配だから使わない」＋「とにかく使わない」）が、男性で62.1%、女性で68.8%、全体で65.7%であり、使う群（「心配せず使う」＋「心配だが使う」）のそれぞれ20.3%、15.3%、17.7%よりは明らかに多かった。睡眠薬では、使わない群がそれぞれ、64.3%、69.7%、67.2%で、使う群がそれぞれ17.4%、12.7%、14.9%と、使わない群が若干ではあるが、更に多かった。

本研究者は、わが国の薬物乱用・依存状況が



多くの先進国に比べて低い背景には、「必要な時でも、心配だから、どちらかという、使わないようにしている」、あるいは、「必要な時でも、心配だから、とにかく使わない」という考え方が正の方向に影響している可能性がある」と推測している。ただし、必要以上に使わないことにこだわることは、苦痛を助長する面もあり、適正使用が必要となる。

4. 違法性薬物について

1. 違法性薬物について

違法性薬物の名前をどの程度知っているか（周知度）を、表37に示した。

有機溶剤に関しては、「シンナー」というと男女共に90%弱の者が周知しているが、「有機溶剤」というと、年代に関係なく約20%前後の者しか周知していなかった。また、「トルエン」に関しては、20～50歳代の者では約90%前後の者が周知していたにも関わらず、トルエンを主流とする「シンナーあそび」の最頻年代である15～19歳では、17.2%の者しか周知しておらず、薬物乱用防止教育の一層の徹底が望まれる（図15）。

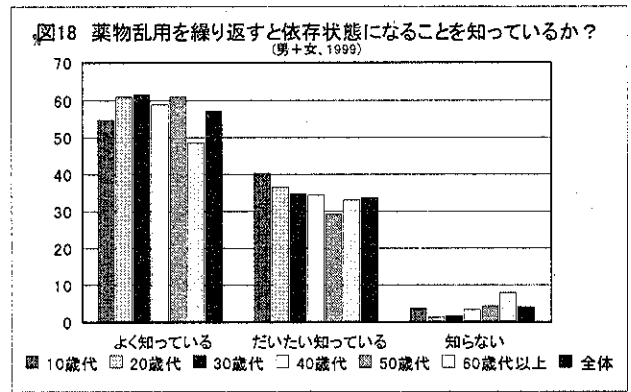
大麻に関しては、「大麻」という用語は男女共に約90%前後の者に知られているが、「マリファナ」は男女共に約80%強に減少し、「ハシッシ」（大麻樹脂）に至っては、男性で18.7%、女性で9.6%、全体で13.9%の者しか周知していなかった（表37）。入手可能性の高まった今日、俗語の普及が要求されると言う事態にもなりかねない。

また、覚せい剤については、「覚せい剤」自体は男女共に約90%弱の者が周知していたが、「スピード」となると、周知者は男性で33.4%、女性で29.4%、全体で31.3%に低下し、「エス」では、それぞれ、さらに12.1%、10.6%、11.3%と激減していた（表37）。第3次覚せい剤乱用期の特徴の一つには、かつて「シャブ」と言われた覚せい剤を「スピード」「エス」と称して、若者がファッションブル感覚で使用するという面がある。実際、「スピード」や「エス」の周知者率は15～19歳と20歳代に比較的高い（図17）。逆に、覚せい剤第1次乱用期を象徴する「ヒロポン」は、年代が高いほど周知者率も高い（図17）。

依存性薬物の乱用の繰り返しは薬物依存を生み出すが、そのことを知っているかどうかについての結果を表38に示した。「よく知っている」+「だいたい知っている」を合わせると、男性では92.1%、女性では90.3%、全体では91.1%の者が知っており、良好な結果であった。図18は周知度の年代比較を示している。

2. 違法性薬物の乱用拡大傾向について

有機溶剤、大麻、覚せい剤、ヘロイン、コカイン、LSD乱用者の増減傾向についての印象を調べた（表39、表52、表61、表69、表76、表83）。その中から、「以前より増えている」「わからない」「言葉がわからない」を選んだ者の割合を表99に示した。どの薬物に関しても、「わからない」を



	以前より 増えている	わからな い	言葉がわ からない
「シナ-遊び」	20.5	56.3	1.5
大麻	25.3	61.8	2.3
覚せい剤	42.2	49.2	1.0
ヘロイン	17.0	65.4	5.6
コカイン	17.6	65.5	5.2
LSD	12.1	52.7	26.3

表99 乱用は増えていると思うか？

	男性	女性	全体
「シナ-遊び」	21.3	16.4	18.7
大麻	5.4	2.8	4.0
覚せい剤	5.8	4.2	5.0
ヘロイン	0.9	0.2	0.6
コカイン	1.2	0.6	0.9
LSD	1.2	0.6	0.9

表100 これまでに違法性薬物を乱用したことがある人を知っている率

	男性	女性	全体
「シナ-遊び」	2.7	2.0	2.4
大麻	1.4	0.5	1.0
覚せい剤	1.9	1.2	1.5
ヘロイン	0.2	0.1	0.2
コカイン	0.2	0.2	0.2
LSD	0.6	0.1	0.3

表101 この1年間に違法性薬物を乱用したことがある人を知っている率

選んだ者が過半数を超えていた。現実問題、これは誰にも本当のところはわからないのであり、それを探ろうというのが本調査研究の目的でもある。ただし、覚せい剤については、「以前より増えている」を選んだ者が42.2%もいた。おそらく、様々なマスメディアによる第3次覚せい剤乱用期に関する報道の影響と推定される。

3. 違法性薬物乱用者の認知率

これまでに違法性薬物を乱用したことがある人を知っているかどうかを表40、表53、表62、表70、表78、表84に示した。その内、「知っている」と答えた者の割合を表100に示した。また、この1年間に違法性薬物を乱用したことがある人を知っているかどうかを表42、表55、表65、表72、表79、表86に示した。その内、「知っている」と答えた者の割合を表101に示した。

ただし、1995年調査5)、1997年調査6)の同種の質問では「あなたの周囲で」という修飾がついていたが、今回はそれを付けなかったため、質問の解釈が曖昧となり、マスメディアによる乱用者の周知も含まれてしまった可能性があり、過去の調査結果との比較ができなかった。今後の本調査では、再度、「あなたの周囲で」を付ける必要がある。

また、これまで及びこの1年間で違法薬物を乱用した人を何人知っているかを、それぞれ表41、表53、表63、表71、表78、表85及び表43、表56、表65、表73、表80、表87に示したが、前述のように「あなたの周囲で」という修飾を付けなかったため、今回は論評を避けることにした。

4. 違法性薬物乱用へ誘われた経験

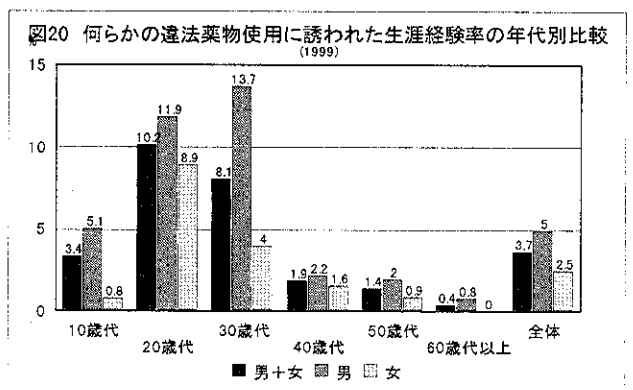
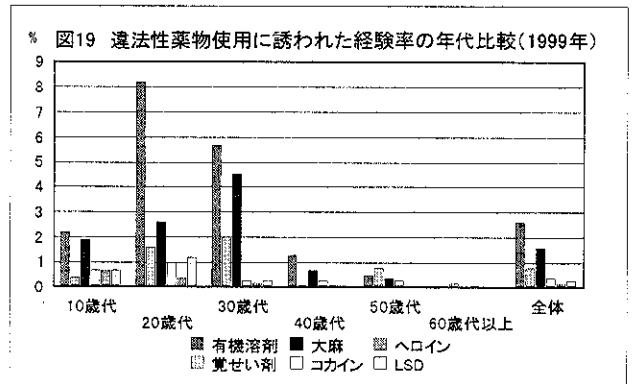
違法薬物の乱用に誘われたことがあるかないかの結果を、表44、表57、表66、表74、表81、表88、表106に示した。表102は、生涯誘惑率（これまでに誘われたことのある率）の推移であり、表103は、1年誘惑率（この1年間に誘われたことのある率）の推移である。この種の違法薬物に関する調査では、知られたくないという心理が働きがちであり、結果の信憑性が問題になる（後述する乱用の経験では特にそうである）が、重要なのは同じ方法論（＝同じバイアス、と仮定して）による結果の推移である。その意味では、乱用経験率よりは誘惑率の方が信頼性は高いと考えられる。また、1年間での率よりは、これまでの生涯率の方が信頼性は高いと推定できる。

	1995年5)	1997年6)	1999年
「シナ-遊び」	1.7	1.6	2.6
大麻	1.0	1.3	1.5
覚せい剤	0.6	0.4	0.8
ヘロイン	0.2	0.1	0.2
コカイン	0.2	0.2	0.4
LSD			0.3
いずれか			3.7

表102 これまでに違法性薬物の乱用に誘われたことのある率の推移

	1995年5)	1997年6)	1999年
「シナ-遊び」	0.2	0.08*	0.05*
大麻	0.2	0.16	0.08*
覚せい剤	0.05*	- *	0.08*
ヘロイン	-	0.08*	0.03*
コカイン	0.05*	0.03*	0.03*
LSD			0.05*
いずれか			0.2

表103 この1年間で違法性薬物の乱用に誘われたことのある率の推移 *：統計誤差内



生涯誘惑率では、有機溶剤、大麻、覚せい剤の順で高い。これは過去2回の調査でも同じであり、乱用の広がり順位を反映していると推定できる。しかも、有機溶剤、大麻、覚せい剤の全てにおいて、生涯誘惑率が上昇を示していることは憂慮すべきことである。1年誘惑率は、数字が小さくあくまで参考である。

この生涯誘惑率を年代別に見ると図19のように年代的ばらつきが著明となる。

わが国の有機溶剤乱用による検挙者数のピークは、1982年にあるが、当時15～19歳にあった者は1999年には32～36歳であり、違法性薬物の乱用は誘われて始めることが多く、その意味では図19の30歳代での生涯誘惑率が最も高くなりそうだが、調査結果では、20歳代が8.2%と最高になっていた。有機溶剤の乱用最頻年齢が15～19歳であることを考えると、10代の者は正直に答えにくく、20歳代の者は比較的近くの過去のこととして答えやすいのかも知れない。

大麻乱用への生涯誘惑率は30歳代で最も高く(4.2%)、覚せい剤の生涯誘惑率も30歳代で最も高かった(2.0%)。

また、図20は何らかの違法薬物の乱用への生涯誘惑率を年代別に示しているが、30歳代男性、20歳代男女での生涯誘惑率が突出しており、年代的には20歳代が最高であることは憂慮すべきことである。

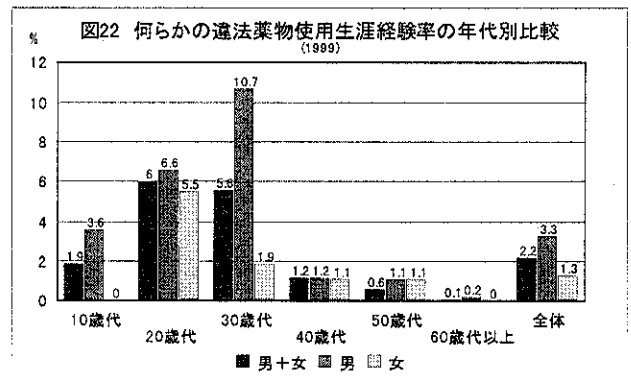
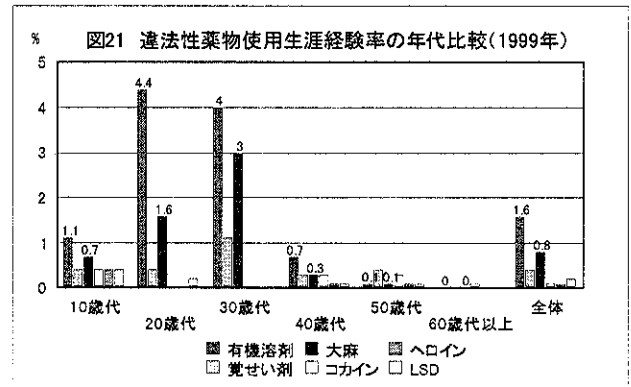
5. 違法性薬物乱用経験

違法性薬物の乱用経験についての結果を、表45、表58、表67、表75、表82、表89、表107に示した。表104は、生涯経験率(これまでに乱用したことのある者の率)の推移であり、表105は、1年経験率(この1年間に乱用したことがある者の率)の推移である。生涯経験率と1年経験率の信憑性の問題は、前述した誘惑率と同様である。重要なのはトレンドを見ることである。

生涯経験率では、有機溶剤、大麻、覚せい剤の順で高い。これは過去2回の調査でも同じであり、乱用の広がり順位を反映していると推定できる。しかも、大麻、覚せい剤において、生涯経験率が上昇を示していることは憂慮すべきことである。特に大麻乱用者は有機溶剤・覚せい剤乱用者に比べて検挙されにくく8)、精神障害も比較的起こしにくく、乱用・依存の広がり程度を捕捉しにくいという特徴があり1)、現実の大麻乱用の広

	1995年5)	1997年6)	1999年
「シナ-遊び」	1.4	1.8	1.5
大麻	0.4	0.5	0.8
覚せい剤	0.3	0.3	0.4
ヘロイン	0.03*	0.03*	0.08*
コカイン	0.08*	0.05*	0.2
LSD			0.1*
いずれか	1.8	2.3	2.2

表104 これまでに違法性薬物の乱用を経験した率(生涯経験率) * : 統計誤差内



	1995年5)	1997年6)	1999年
「シナ-遊び」	0.08*	0.03*	0.05*
大麻	0.05*	0.05*	0.05*
覚せい剤	0.05*	0.05*	0.08*
ヘロイン	- *	0.03*	0.03*
コカイン	0.05*	0.03*	0.03*
LSD			0.05*
いずれか		0.05*	0.2

表105 この1年間で違法性薬物の乱用を経験した率(1年経験率) * : 統計誤差内

がりは予想以上の可能性がある。今後のわが国の薬物乱用状況に影響しかねない問題である。

図21は、年代と経験薬物との関係を示したものである。有機溶剤の生涯経験率は20歳代、30歳代で高く、大麻の生涯経験率は30歳代、20歳代が高い。

生涯誘惑率で論じたが、わが国の有機溶剤乱用による検挙者数のピークは、1982年にあり、当時15～19歳にあった者は1999年には32～36歳であり、その意味では図21の30歳代での生涯経験率が最も高くなりそうなものだが、調査結果では、20歳代が4.4%と最高になっていた。有機溶剤の乱用最頻年齢が15～19歳であることを考えると、10代の者は正直に答えにくく、20歳代の者は比較的近くの過去の事として答えやすく、30歳代以降の者にとっては過ぎ去った過去の出来事として、関心が薄れているのかもしれない。

図22は今回調査した何らかの違法性薬物の生涯経験率を年代別に示したものである。表104に示したように、覚せい剤の生涯経験率が0.4%で、何らかの違法性薬物乱用経験率が2.2%と言ったところで、図22のように年代を限れば、15～19歳での生涯経験率は1.9%、20歳代では6%、30歳では5.6%となり、30歳代の男性に限れば10.7%にもなる。この年代的差異が薬物乱用問題の一つの特徴である。しかも、若い年代ほど経験率が高いと言うことは、社会全体での薬物乱用傾向が強いことを意味しており、憂慮すべき事態を反映している可能性がある。

1年経験率は、答える側にとって、最も心理的抵抗が予想される質問であり、その結果かどうかは不明ではあるが、数字が小さいため、参考資料と言わざるを得ない。しかし、覚せい剤に関しては0.08%であり、これまでにない数字であることは、第3次覚せい剤乱用期を象徴している可能性がある。

6. 薬物乱用が健康に及ぼす害知識について

今回の調査では、有機溶剤乱用が健康に及ぼす害について知識周知度を調べる質問を設け、その結果を表46～51に示した。これまで述べてきたように、乱用経験者の数の上ではわが国最大の問題でありながら、覚せい剤ほどには社会的に関心を集めない感があるからである。しかし、第2次覚せい剤乱用期の調査によれば、覚せい剤乱用・依存者の少なくとも1/3は、有機溶剤乱用から覚せい

剤乱用に進んでおり、有機溶剤乱用の防止が結果的に覚せい剤乱用防止の有力対策になると考えられる。そのため、当研究者らは全国の中学生における薬物乱用状況を把握するための調査(9)11)で、有機溶剤乱用による健康への害を教える形で調査しており、今回、成人を中心とする本調査にも同様の質問を織り込むことによって、社会での有機溶剤乱用への注意を喚起したいと考えた。

有機溶剤の乱用は急性中毒死を招くことがあるが、その周知度は70.7%であった(表46)。1998年の全国中学生調査(11)では67.6%であった。

有機溶剤の乱用の繰り返しは、歯をボロボロにすることがあるが、その周知度は56.7%であった(表47)。1998年の全国中学生調査では52.2%であった。

有機溶剤の乱用の繰り返しは、多発神経炎を惹起する可能性があるが、その周知度は53.2%であった(表48)。1998年の全国中学生調査では63.0%であった。

幻覚・妄想を主とする精神病を惹起する可能性があるが、その周知度は77.1%であった(表49)。1998年の全国中学生調査では74.1%であった。

有機溶剤の乱用の繰り返しは、無動機症候群を惹起する可能性があるが、その周知度は62.6%であった(表50)。1998年の全国中学生調査では49.0%であった。

有機溶剤の乱用の繰り返しにより、一旦、精神病状態を経験した者には、その後、フラッシュバックが起きる可能性があることの周知度は、44.6%であった(表51)。1998年の全国中学生調査では46.9%であった。

以上のように、成人を中心とする有機溶剤乱用による健康への害知識は、1998年の全国中学生調査の結果とほとんど同じであり、社会における有機溶剤乱用への関心を喚起していく必要がある。

大麻の乱用は精神病状態を惹起したり、無動機症候群を引き起こすことがあることの周知率は69.8%であった(表60)。1998年の全国中学生調査では47.2%であった。覚せい剤乱用の繰り返しは、精神病を引き起こしやすく、フラッシュバックがあることの周知率は67.0%であった(表68)。1998年の全国中学生調査では55.8%であった。

これらの結果は、大麻及び覚せい剤による健康への害については成人の方が周知率が高いことを推定させる。

7. 違法性薬物の入手可能性について

違法性薬物の入手可能性についての結果は表90～表95に示した。それをまとめたものが図23である。「簡単に手に入る」+「少々苦勞するが、なんとか手に入る」を入手可能群とし、「ほとんど不可能」+「絶対不可能」を入手不可能群すると、有機溶剤のみが入手可能群（47.2%）が入手不可能群（42.2%）を上回っていた。その他の薬物については、図23のように入手は難しそうである。

しかし、入手可能性を年代別に見ると様相は変わる（図24～図26）。有機溶剤では20歳代、30歳代、40歳代で入手可能群は50%を越える。大麻での入手可能群は15～19歳で24.3%、20歳代で22.1%、30歳代で16.7%となり、覚せい剤では15～19歳で28.9%、20歳代で22.5%、30歳代で15.2%となる。大麻及び覚せい剤では入手可能群は15～19歳で最も高いのである。これは、まさに「変造テレホンカードの路上での密売→同じルートでの大麻の密売→同じルートでの覚せい剤の密売」という第3次覚せい剤乱用期の出現様式の特徴12)に一致する結果である。

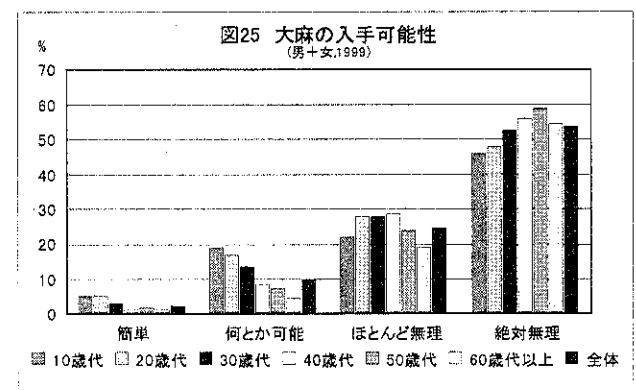
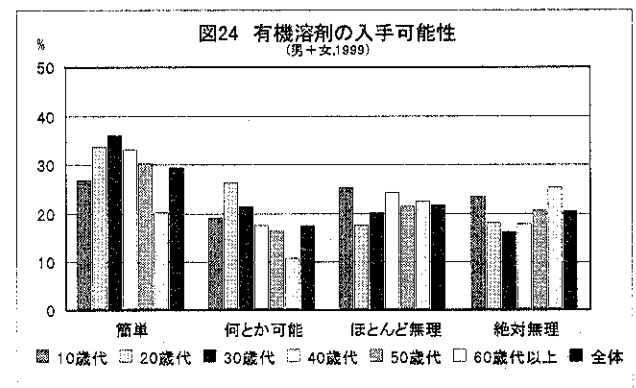
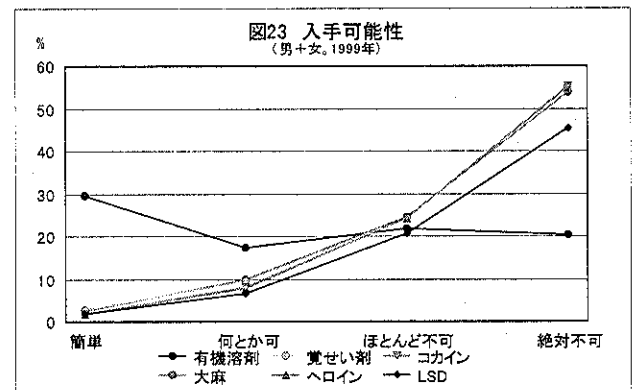
このことは違法薬物の生涯経験率で論じた薬物乱用・依存問題の年代的差異と同種の本質的問題である。

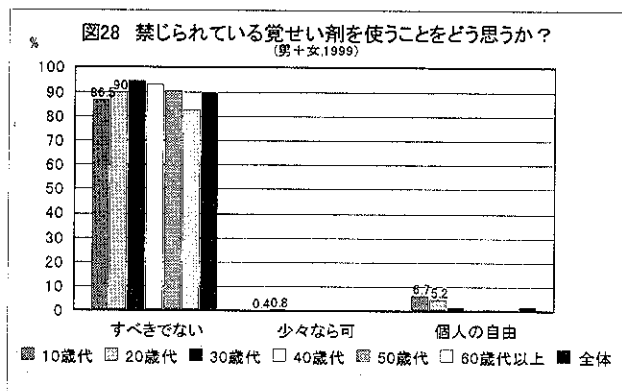
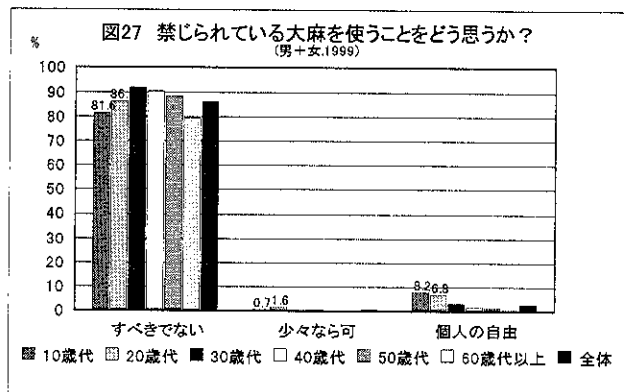
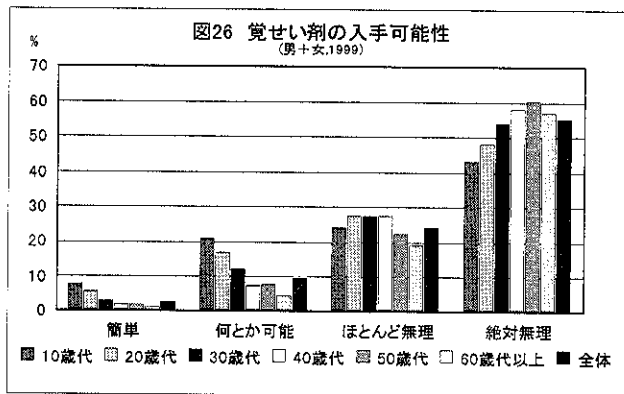
8. 法の遵守性について

本研究者は、わが国の薬物乱用・依存状況が多くの先進諸国に比べて良好な背景には、国民の遵法精神の高さがあると推定している。覚せい剤は使用自体が法により規制されており、その使用について如何なる意識を持っているかを調査した（表96、表97）。大麻では86.2%、覚せい剤では89.1%の者が「法律で禁止されているから、すべきではない」を選んだ。中には本来選択肢にはなかった「法律と関わりなく、すべきではない」と記載された方もいた（表96、表97）。これらは、まさに遵法精神の高さを物語っている。

しかし、これを年代別に見ると（図27、図28）、少々危惧が生じる。60歳以上を除けば（60歳以上では無回答者が比較上多い）、「すべきでない」を選択した者の率は大麻でも覚せい剤でも15～19歳が最も少なく、次に20歳代が少ないという結果である。逆に、「法律で禁止されているが、そもそも法律で決める必要がなく、個人の自由だと思う」を選択した者の割合は、15～19歳で最も高く、大麻で8.2%、覚せい剤で6.7%にのぼった。20歳代

ではそれぞれ、6.8%、5.2%であった。このような認識が増加すれば、わが国の薬物乱用・依存状況は好ましくない方向に進展することは明らかであり、薬物乱用・依存問題は「個人の自由」ではすまない問題であることの認識を徹底する必要がある。





E. 結論

わが国の飲酒・喫煙・医薬品をも含めた薬物乱用・依存状況を把握するために、全国の15歳以上の住民に対して、戸別訪問留置法による「薬物使用に関する全国住民調査」を実施した。

① 対象は、層化二段無作為抽出法（調査値点数：350）を用い、5,000人を抽出した。調査期間は1999年9月22日～10月6日である。

② 回収数は3,790（75.8%）であり、有効回答数

は3,788（75.8%）であった。

③ 飲酒生涯経験率（これまでに1回でも飲酒したことがある者の率）は、男性で92.3%、女性で82.7%、全体で87.2%であった。

飲酒生涯経験者の初飲年齢が20歳前の者が、男性では77.8%、女性では61.3%、全体で69.6%であった。

「ほとんど毎日飲酒している」者の割合は、男女共に40歳代で最高となり（男性：43.5%、女性：9.5%、全体：25.3%）、その後、低下していた。

その他、飲酒の機会、禁酒経験等、わが国の飲酒はライフ・サイクルと深く結びついており、飲酒問題を論じる際には、飲んだことがあるかないかを基準にしても、さほど意味がなく、機会、頻度、量等の質的要因を考慮する必要があることが示唆された。

④ 喫煙の生涯経験率は、男性で76.4%、女性で25.1%、全体で49.3%であった。1995年5）、1997年6）の本調査に比べると、男性での喫煙者の減少傾向と女性での横這い傾向が示唆された。

初めての喫煙年齢は、18歳前に、男子では47%、女子では40%、全体では45%の者が喫煙経験を持つようになっていた。

一日の喫煙本数が11～20本と21本以上の者の割合を年代別にみると、男性では、11～20本/日の者の割合が、20歳代以降、明らかに低下して行くが、その反面、21本以上/日の者の割合が年代と共に明らかに上昇し、40歳代でピーク（26.7%）となっていた。女性では、20歳代で11～20本/日喫煙する者の割合が突出して高く（14.8%）、21本以上/日の割合は、男性同様に40歳代にピーク（3.0%）があるが、割合自体は相対的に低かった。

その他、禁煙経験等の調査より、喫煙者と言えども、喫煙の健康に及ぼす影響を心配し、禁煙願望がそれなりにあることが示唆された。

⑤ 家庭の常備薬としては、①風邪薬、胃腸薬、②湿布薬、③鎮痛薬、ビタミン剤、④抗生物質、精神安定薬、睡眠薬と頻度的に多かった。

常用（週4回以上）している医薬品としては、男女共にビタミン剤が多く、その次に胃腸薬であり、その他は非常に割合が少なかった。

⑥ 鎮痛薬の使用頻度では、「1年間で数回」使用した者が男性で26.1%、女性で31.7%、全体で29.1%と最も多かった。1年間での鎮痛薬の使用経験率は、男性で35.4%、女性で52.4%、全体で44.4%

		ない	1年間より 前にあった	1年間に あった	無回答& 回答非該当	合計
シンナー	男性	1649 (92.5)	62 (3.5)	2 (.1)	70 (3.9)	1783 (100.0)
	女性	1875 (93.7)	34 (1.7)	— —	93 (4.6)	2002 (100.0)
	全体	3527 (93.1)	96 (2.5)	2 (.1)	163 (4.3)	3788 (100.0)
大麻	男性	1672 (93.8)	36 (2.0)	3 (.2)	73 (4.1)	1783 (100.0)
	女性	1878 (93.8)	16 (.8)	— —	108 (5.4)	2002 (100.0)
	全体	3552 (93.8)	53 (1.4)	3 (.2)	181 (4.8)	3788 (100.0)
覚せい剤	男性	1709 (95.8)	19 (1.1)	2 (.1)	53 (3.0)	1783 (100.0)
	女性	1912 (95.5)	9 (.4)	1 (.0)	81 (4.0)	2002 (100.0)
	全体	3624 (95.7)	28 (.7)	3 (.1)	134 (3.5)	3788 (100.0)
ヘロイン	男性	1668 (93.6)	5 (.3)	1 (.1)	109 (6.1)	1783 (100.0)
	女性	1814 (90.6)	1 (.0)	— —	187 (9.3)	2002 (100.0)
	全体	3485 (92.0)	6 (.2)	1 (.0)	296 (7.8)	3788 (100.0)
コカイン	男性	1681 (94.3)	10 (.6)	1 (.1)	91 (5.1)	1783 (100.0)
	女性	1837 (91.8)	3 (.1)	— —	162 (8.1)	2002 (100.0)
	全体	3521 (93.0)	13 (.3)	1 (.0)	253 (6.7)	3788 (100.0)
LSD	男性	1400 (78.5)	8 (.4)	2 (.1)	373 (20.9)	1783 (100.0)
	女性	1349 (67.4)	2 (.1)	— —	651 (32.5)	2002 (100.0)
	全体	2751 (72.6)	10 (.3)	2 (.1)	1025 (27.1)	3788 (100.0)

表106 違法性薬物への誘われ経験

		ない	1年間より 前にあった	1年間に あった	無回答& 回答非該当	合計
シンナー	男性	1677 (94.1)	36 (2.0)	2 (.1)	68 (3.8)	1783 (100.0)
	女性	1894 (94.6)	19 (.9)	— —	89 (4.4)	2002 (100.0)
	全体	3574 (94.4)	55 (1.5)	2 (.1)	157 (4.1)	3788 (100.0)
大麻	男性	1688 (94.7)	22 (1.2)	2 (.1)	72 (4.0)	1783 (100.0)
	女性	1886 (94.2)	9 (.4)	— —	107 (5.3)	2002 (100.0)
	全体	3577 (94.4)	31 (.8)	2 (.1)	179 (4.7)	3788 (100.0)
覚せい剤	男性	1721 (96.5)	9 (.5)	2 (.1)	52 (2.9)	1783 (100.0)
	女性	1921 (96.0)	3 (.1)	1 (.0)	77 (3.8)	2002 (100.0)
	全体	3645 (96.2)	12 (.3)	3 (.1)	129 (3.4)	3788 (100.0)
ヘロイン	男性	1671 (93.7)	2 (.1)	1 (.1)	109 (6.1)	1783 (100.0)
	女性	1809 (90.4)	— —	— —	193 (9.6)	2002 (100.0)
	全体	3483 (91.9)	2 (.1)	1 (.0)	302 (8.0)	3788 (100.0)
コカイン	男性	1685 (94.5)	4 (.2)	1 (.1)	93 (5.2)	1783 (100.0)
	女性	1835 (91.7)	1 (.0)	— —	166 (8.3)	2002 (100.0)
	全体	3523 (93.0)	5 (.1)	1 (.0)	259 (6.8)	3788 (100.0)
LSD	男性	1421 (79.7)	3 (.2)	2 (.1)	358 (20.1)	1783 (100.0)
	女性	1355 (67.7)	— —	— —	647 (32.3)	2002 (100.0)
	全体	2778 (73.3)	3 (.1)	2 (.1)	1006 (26.6)	3788 (100.0)

表107 違法性薬物の使用経験

であった。

常用的使用者（「週に3～6回」ないしは「ほとんど毎日」使用した者）は、男性では1.6%、女性では1.7%、全体では1.6%であった。

⑦ 精神安定薬の使用頻度では、男性では「ほとんど毎日」使用した者が2.0%と最も多く、次に「1年間で数回」使用した者が1.6%と多かった。女性では逆に「1年間で数回」使用した者が3.6%と最も多く、次に「ほとんど毎日」使用した者が1.7%と多かった。1年間での精神安定薬の使用経験者率は、男性で5.7%、女性で8.5%、全体で7.2%であった。

常用的使用者は、男性では2.3%、女性では2.8%、全体では2.6%であった。

⑧ 睡眠薬の使用頻度では、男女ともに、「1年間で数回」使用した者が、それぞれ2.0%、3.3%、全体で2.7%と最も多かった。1年間での睡眠薬の使用経験者率は、男性で4.9%、女性で6.5%、全体で5.8%であった。

常用的使用者は、男性で1.8%、女性で1.2%、全体で1.5%であった。

⑨ 以上の結果を1995年調査5)、1997年調査6)の結果と比較すると、鎮痛薬の1年間での使用経験者率がかなり増加したが、精神安定薬と睡眠薬では微増であった。

また、常用的使用者率及び入手先、使用目的等から判断し、精神安定薬、睡眠薬の社会的管理はそれなりに良好と考えられた。

⑩ 鎮痛薬、精神安定薬、睡眠薬を使うことへの心情・実情では、鎮痛薬では、使う群（「心配せず使う」＋「心配だが使う」）が、男性では48.1%、女性では57.7%、全体では47.9%と、使わない群（「心配だから使わない」＋「とにかく使わない」）の37.3%、40.5%、39.0%より多かった。しかし、精神安定薬では、使わない群が、男性で62.1%、女性で68.8%、全体で65.7%に対して、使う群がそれぞれ20.3%、15.3%、17.7%であり、睡眠薬では、使わない群がそれぞれ、64.3%、69.7%、67.2%で、使う群がそれぞれ17.4%、12.7%、14.9%と、使わない群が多かった。

⑪ 違法性薬物名の周知度では、有機溶剤に関しては、「シンナー」というと男女共に90%弱の者が周知しているが、「有機溶剤」というと、年代に関係なく約20%前後の者しか周知しておらず、トルエンを主流とする「シンナーあそび」の最頻年

代である15～19歳では、17.2%の者しか「トルエン」を周知していなかった。

大麻に関しては、「大麻」という用語は男女共に約90%前後の者に知られているが、「マリファナ」は男女共に約80%強に減少し、「ハシッシ」（大麻樹脂）に至っては、男性で18.7%、女性で9.6%、全体で13.9%の者しか周知していなかった。

また、覚せい剤については、「覚せい剤」自体は男女共に約90%弱の者が周知していたが、「スピード」となると、周知者は男性で33.4%、女性で29.4%、全体で31.3%に低下し、「エス」では、それぞれ、さらに12.1%、10.6%、11.3%と激減していた。

第3次覚せい剤乱用期の特徴の一つには、かつて「シャブ」と言われた覚せい剤を「スピード」「エス」と称して、若者がファッションブル感覚で使用するという面がある。「スピード」や「エス」の周知者率は15～19歳と20歳代に比較的高かったが、違法性薬物の入手が比較的容易になった今日では、俗称もそれなりに心得ておく必要がある。

⑫ 違法性薬物乱用への生涯誘惑率（これまでに誘われたことのある率）では、有機溶剤（2.6%）、大麻（1.5%）、覚せい剤（0.8%）、コカイン（0.4%）、LSD（0.3%）ヘロイン（0.2%）の順で高かった。

この生涯誘惑率を年代別に見ると、有機溶剤では、20歳代が8.2%と高かった。大麻乱用では30歳代で最も高く（4.5%）、覚せい剤でも30歳代で最も高かった（2.0%）。

これらを、何らかの違法薬物の乱用への生涯誘惑率と言う見方で、年代別に見ると、30歳代男性（13.7%）、20歳代男女（男：11.9%、女：10.2%）での生涯誘惑率が突出しており、年代的には20歳代が最高（10.2%）であることは憂慮すべきことと思われた。

⑬ 違法薬物の生涯経験率（これまでに乱用したことのある者の率）では、有機溶剤（1.5%）、大麻（0.8%）、覚せい剤（0.4%）、コカイン（0.2%）、LSD（0.1%）、ヘロイン（0.1%）の順で高かった。特に大麻乱用者は有機溶剤・覚せい剤乱用者に比べて検挙されにくく8)、精神障害も比較的上起こしにくく、乱用・依存の広がりや程度を捕捉しにくいという特徴があり1)、現実の大麻乱用の広がりや予想以上の可能性がある。今後のわが国の薬物乱用状況に影響しかねない問題である。

何らかの違法性薬物の生涯経験率という見方を

すると、2.2%にのぼった。

年代と経験薬物との関係では、有機溶剤の生涯経験率は20歳代(4.4%)、30歳代(4.0%)で高く、大麻の生涯経験率は30歳代(3.0%)、20歳代(1.6%)で高かった。何らかの薬物という見方をすると、15~19歳での生涯経験率は1.9%、20歳代では6%、30歳では5.6%となっており、30歳代の男性では10.7%にものぼった。

若い年代で経験率が高いと言うことは、社会全体での薬物乱用傾向が強いことを意味しており、憂慮すべき事態を反映していると考えられた。

⑭ 有機溶剤の乱用が健康に及ぼす害についての知識周知度は、全国中学生調査の調査結果(9)⑪)とほとんど同じであった。しかし、大麻の乱用と覚せい剤の乱用とが健康に及ぼす害については、今回の成人を中心とする調査の方が周知率は高かった。有機溶剤乱用の健康に及ぼす影響については、社会での注意を喚起する必要性が示唆された。

⑮ 違法性薬物の入手可能性については、有機溶剤のみが入手可能群(「簡単に手に入る」+「少々苦勞するが、なんとか手に入る」)(47.2%)が入手不可能群(「ほとんど不可能」+「絶対不可能」)(42.2%)を上回っていた。

ただし、年代別に見ると、大麻では15~19歳で24.3%、20歳代で22.1%、30歳代で16.7%が入手可能群となり、覚せい剤では、15~19歳で28.9%、20歳代で22.5%、30歳代で15.2%が入手可能群となった。

大麻及び覚せい剤での入手可能群は、15~19歳で最も高く、これは、「変造テレホンカードの路上での密売→同じルートでの大麻の密売→同じルートでの覚せい剤の密売」という第3次覚せい剤乱用期の出現様式の特徴(12)に一致する結果であった。

⑯ **遵法精神**では、その使用について、大麻では86.2%、覚せい剤では89.1%の者が「法律で禁止されているから、すべきではない」を選んだ。中には本来選択肢にはなかった「法律と関わりなく、すべきではない」と答えられた方もいた。これらは、まさに遵法精神の高さを物語っている。

しかし、年代別に見ると、「すべきでない」を選択した者の率は、大麻でも覚せい剤でも15~19歳が最も少なく、次に20歳代が少ないという結果であり、逆に、「法律で禁止されてはいるが、そもそも法律で決める必要がなく、個人の自由だと

思う」を選択した者の割合は、15~19歳で最も高く、大麻で8.2%、覚せい剤で6.7%にのぼった。

⑰ 以上のように、わが国の薬物乱用・依存状況は、多くの先進諸国に比べて、未だに良好ではあるが、大麻を中心とする違法薬物の生涯経験率が増加傾向にあり、30歳代以下における乱用経験率は決して低いと言えるものではない。さらに、若い世代では、遵法精神の翳りも伺われ、社会的注意喚起の持続・維持が必要と考えられた。

F. 研究発表

1. 論文発表:

- (1) 和田 清: 青少年の薬物乱用・依存の現状。日本社会精神医学会雑誌 8 (3): 195-205, 2000.
- (2) 和田 清: 青少年の薬物乱用の現状と課題②: 予防と回復の鍵は日常生活そのものにある!。「リブドラッグフリー」(編: 石川哲也、勝野真吾、川端徹朗)。学研。pp.16-23, 2000.

2. 学会発表

- (1) Wada, K.: The Short History and Current Situation on Drug Abuse in Japan. Asia Multi-City Epidemiology Workgroup Meeting, Penang, Malaysia, 10-13 May, 1999.
- (2) 和田 清、中野良吾、尾崎米厚、勝野真吾: わが国の中学生における有機溶剤乱用の現状とその背景。第34回日本・アルコール薬物医学会。札幌。1999.9.11
- (3) Wada, K.: Country Report. WHO Meeting on Amphetamine Type Stimulants, Phase II. Bangkok, Thailand, 22-28 November 1999.
- (4) Wada, K.: The Brief History and Current Situation on Drug Abuse in Japan. The 47th Meeting of The Community Epidemiology Work Group. NIDA (USA), Los Angeles, USA, 13-17 December, 1999.
- (5) 第35回日本アルコール・薬物医学会にて発表予定。横浜。2000.7.4-6.

謝辞

本調査研究にご回答をいただいた、多くの方々に、心よりお礼を述べさせていただきます。

引用文献

- 1) 尾崎 茂、和田 清、福井 進：全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査。平成10年度厚生科学研究費補助金（医薬安全総合研究事業）「薬物乱用・依存等の疫学的研究及び中毒性精神病患者等に対する適切な医療のあり方についての研究（主任研究者：和田清）研究報告書。pp. 85-116, 1999.
- 2) 福井 進、和田 清、伊豫雅臣：薬物依存の世帯調査。平成4年度厚生科学研究費補助金（麻薬等総合対策研究事業）「薬物依存の社会的、精神医学的特徴に関する研究（主任研究者：福井 進）」平成4年度研究報告書、pp. 9-23, 1993.
- 3) 福井 進、和田 清、伊豫雅臣：薬物依存の世帯調査。平成5年度厚生科学研究費補助金（麻薬等総合対策研究事業）「薬物依存の社会的、精神医学的特徴に関する研究（主任研究者：福井 進）」平成5年度研究報告書、pp. 5-26, 1994.
- 4) 福井 進、和田 清、伊豫雅臣：薬物依存の世帯調査。平成6年度厚生科学研究費補助金（麻薬等総合対策研究事業）「薬物依存の社会的、精神医学的特徴に関する研究（主任研究者：福井 進）」平成6年度研究報告書、pp. 5-34, 1995.
- 5) 福井 進、和田 清、伊豫雅臣、浦田重治郎、尾崎 茂：薬物乱用・依存の世帯調査。平成7年度厚生科学研究費補助金（麻薬等総合対策研究事業）「薬物依存・中毒者の疫学調査及び精神医療サービスに関する研究（主任研究者：寺元 弘）」平成7年度研究報告書第1分冊、pp. 5-35, 1996.
- 6) 福井 進、和田 清、菊池周一、尾崎 茂、浦田重治郎：薬物乱用・依存の世帯調査。平成9年度厚生科学研究費補助金（麻薬等総合対策研究事業）「薬物依存・中毒者の疫学調査及び精神医療サービスに関する研究（主任研究者：寺元 弘）」平成9年度研究報告書第1分冊、pp. 7-48, 1998.
- 7) 和田 清、福井 進：覚せい剤精神病の臨床症状—覚せい剤使用年数との関係—。アルコール研究と薬物依存 25:143-158, 1990.
- 8) Wada, K.; Cocaine Abuse in Japan. *Lpn. J. Alcohol & Drug Dependence* 29: 83-91, 1994.
- 9) 和田 清、勝野真吾、尾崎米厚、中野良吾：中学生における「シンナー遊び」・喫煙・飲酒についての調査研究。平成8年度厚生科学研究費補助金（麻薬等総合対策研究事業）研究報告書「薬物依存・中毒者の疫学調査及び精神医療サービスに関する研究班」（主任研究者：寺元 弘）第1分冊薬物乱用・依存の多面的疫学調査研究（2）。pp. 21-60. 1996.
- 10) Wada, K., Price, R. K., Fukui, S.: Reflecting Adult Drinking Culture: Prevalence of Alcohol Use and Drinking Situations among Japanese Junior High School Students in Japan. *Journal of Studies on Alcohol* 59: 381-386, 1998.
- 11) 和田 清、中野良吾、尾崎米厚、勝野真吾：薬物乱用に関する全国中学生意識・実態調査。平成10年度厚生科学研究費補助金（医薬安全総合研究事業）「薬物乱用・依存等の疫学的研究及び中毒性精神病患者等に対する適切な医療のあり方についての研究（主任研究者：和田 清）研究報告書。pp. 19-83, 1999.
- 12) 和田 清：薬物依存の最近の傾向と対策。日本医事新報 第3920号：25-32, 1999.
- 13) 和田 清：中学生における飲酒—飲酒文化の反映—。日本アルコール・薬物医学会雑誌 34:36-48, 1999.

薬物使用についてのアンケート調査

ご協力へのお願い

国立精神・神経センター精神保健研究所薬物依存研究部は、薬物の使用状況、乱用実態などを調査し、薬物使用および乱用に対する対策のための基礎資料作りを行っている厚生省の調査研究機関です。

このたび、全国にお住まいの15歳以上の方、5,000人に、薬物の使用実態をおたずねすることになりました。お忙しいところ、突然で、恐縮ですが、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

あなた様をお訪ねいたしましたのは、住民台帳より、「くじ引き」と同じ統計上の理論と手法によって、無作為で調査対象を抽出させていただいた結果です。

調査のために、お訪ねしました調査員は、当研究所より委託しました、調査専門機関である社団法人新情報センターの調査員です。

お訪ねしました調査員は、あなた様の住所・氏名を存じ上げた上で、お訪ねしたわけですが、後日、回収におうかがいし、調査用紙を受け取る際には、回収用封筒に入れられた調査用紙を受け取るだけです。あなた様が記載された内容を知ることはできません。また、調査用紙回収後は、調査対象者名簿はすみやかに廃棄されます。

また、結果の分析は、当研究部にて行いますが、当研究部ではどの調査用紙がどの方のものか、特定することができません。

したがって、あなた様の個人情報漏れることはありません。

本調査用紙には、個人が特定される項目はありません。

調査の趣旨にご理解をいただきまして、ご協力いただけますよう、お願い申し上げます。

なお、本調査につきまして、ご意見、ご質問等がございましたら、下記の新情報センターまでお問い合わせ下さいませようお願い申し上げます。

(些少ですが調査員に粗品を持参させました。ご笑納下さい。)

ご記入に際してのお願い

- 1) ご記入は、鉛筆または、黒・青のボールペンでお願いします。
- 2) 回答は、あなたの気持ち・考え・実情に最も近いものの番号を○印で囲んで下さい。
必要に応じて、() 内にご記入下さい。
- 3) ご記入は、質問の番号や矢印(→)にそってお願いいたします。
- 4) その他、記入上おわかりにならない点などがありましたら、調査員にお尋ねになるか、下記の(社)新情報センターまでお問い合わせ下さい。

回収日時

____月 ____日 ____時頃に、回収にお伺いします。それまでにご記入の上、回収用封筒に入れて、調査員にお渡し下さいますようお願い申し上げます。調査員名(_____)

平成11年10月

<調査企画>

国立精神・神経センター
精神保健研究所
薬物依存研究部

<調査実施機関>

社団法人 新情報センター
東京都渋谷区恵比寿1-13-6
TEL: (03) 3473-8833
担当: 市村、北村

【あなたご自身について、おたずねします。】

問1 性別を教えてください。(○は1つ)

1. 男性	2. 女性
-------	-------

問2 お年は満おいくつですか？(○は1つ)

1. 15～19歳	2. 20～24歳	3. 25～29歳	4. 30～34歳	5. 35～39歳
6. 40～44歳	7. 45～49歳	8. 50～59歳	9. 60歳以上	

問3 最後に出られた学校は、次のどれにあたりますか？(○は1つ)

1. 小学校（尋常小学校も含む）	2. 中学校（尋常高等小学校も含む）
3. 高等学校（旧制中学校・高女も含む）	4. 短大・大学以上（旧制高等学校も含む）

問4 あなたは、現在、学生・専業主婦・パートタイム・アルバイト等を含めて、以下のどれに該当しますか？(○は1つ)

<p>学生</p> <p>1. 中学生</p> <p>2. 高校生</p> <p>3. 予備校生</p> <p>4. 専門学校、各種学校生徒</p> <p>5. 短大生・大学生・大学院生</p> <p>自営業種、家族従業員</p> <p>8. 農林漁業の自営者</p> <p>9. 商店主（小売業・卸売店の店主など）</p> <p>10. 工場主（製造工場・自動車整備工場・印刷工場主など）</p> <p>11. 土木建設業種（工務店主など）</p> <p>12. 医療関係業種（病院経営、薬局・薬店主など）</p> <p>13. サービス業事業主（旅館主、喫茶店主、理・美容店主、クリーニング店主、運送店主など）</p> <p>14. その他の事業主（弁護士・会計士事務所経営、宗教家、プロスポーツ選手など）</p> <p>勤め人</p> <p>15. 販売従業者（販売店員、外交員、行商人、セールスマンなど）</p> <p>16. 保安従業者（警察官、消防士・自衛官、守衛・管理人・ガードマンなど）</p> <p>17. 運輸従業者（運転手、機関士・車掌など）</p> <p>18. 通信従事者（電話交換手、通信士など）</p> <p>19. サービス業従事者（ウエイター、ホステス、家政婦、ガイドなど）</p> <p>20. 技能職従事者（理容師、美容師、調理師など）</p> <p>21. 土木建築業従事者（大工、とび職、土工、左官、配管工、その他建設作業員など）</p> <p>22. 工場労働者、工業作業員（洋服仕立て工、印刷工、板金工、自動車修理工、旋盤工、メッキ工など）</p> <p>23. その他の労務従事者（採鉱員、荷役作業員、清掃員など）</p> <p>24. 専務従事者（事務系会社員、事務系公務員、タイピスト、記者など）</p> <p>25. 管理的職業（課長以上の公務員、民間会社の部長以上など）</p> <p>26. 医療職従事者（医師、看護婦、薬剤師など）</p> <p>27. その他の専門・技術職従事者（技術者、弁護士、教師、研究者など）</p> <p>28. 専業主婦</p>

29. 無 職

30. その他（具体的に： _____ ）

【あなたの飲酒習慣について、おたずねします。】

問 5 現在の、あなたの飲酒習慣は、以下のどれに該当しますか？（○は1つ）

1. そもそも、これまでに一度も飲んだことがない → 問 6 へ	} → 1~4の場合 補問 1 へ 5~7の場合 補問 3 へ
2. 現在禁酒中。または、禁酒した その場合、止めてからどのくらいになりますか？ 1. 1ヶ月未満 2. 3ヶ月未満 3. 6ヶ月未満 4. 1年未満 5. 3年未満 6. 5年未満 7. それ以上	
3. 禁酒したわけではないが、この1年間では飲んでいない → 補問 2 へ	
4. この1年間で、数回飲んだ（年間5回以内）	
5. 2ヶ月に1回程度、飲んだ（年間約6~11回）	
6. 月に1~2回程度、飲んだ（年間約12~24回）	
7. 月に数回程度、飲んだ（年間約25~51回）	
8. 週に1~2回程度、飲んでいる	※ここで言う飲酒には、梅酒等も含みます。また、「飲む」とは、「なめる」「口をつける」も含めます。
9. 週に3~6回程度、飲んでいる	
10. ほとんど毎日、飲んでいる	

補問 1（この1年間に飲酒したことのある人におたずねします） この1年間は、主にどのような機会に飲むことが多いですか？（○はいくつでもけっこうです）

1. 冠婚葬祭時	6. 家での食事や団らんで
2. 仕事や商売上の必要で	7. 外での食事や団らんで
3. 上司とのつきあいで	8. 仕事や職場でいやなことがあったとき
4. 友人・同僚とのつきあいで	9. 家の中でおもしろくないことがあったとき
5. その他のつきあいで	10. 寝る前に
	11. その他（具体的に： _____ ）

補問 2 これまでに禁酒しようかと考えたことがありますか？（○は1つ）

1. 禁酒中。ただし、まだ1年たっていない
2. 禁酒を試みたが失敗した
3. 禁酒を考えたが実行したことがない
4. 禁酒を考えたことはない → 補問 4 へ

補問 3（禁酒した人および禁酒しようかと考えたことがある人におたずねします。）
禁酒しようかと考えた大きな理由は何ですか？（○はいくつでもけっこうです）

1. 健康上の不調を感じたことはないが、その可能性が心配になったから
2. 健康上の不調を感じたから
3. 問題は起こしたことはないが、自分の飲酒に問題を感じたから
4. 飲酒で問題を起こしたから
5. その他（具体的に： _____ ）

補問 4 あなたが、「いたずら」を含めて、初めてアルコールを口にしたのはいつ頃ですか？（○は1つ）

1. 小学校以前	2. 小学校時代	3. 中学校時代	4. 中卒後18歳より前
5. 18歳~19歳	6. 20歳以降		

↓
補問 5 あなたが、本格的に、飲酒し始めたのはいつ頃ですか？ (○は1つ)

- | | | | |
|------------|----------|----------|--------------|
| 1. 小学校以前 | 2. 小学校時代 | 3. 中学校時代 | 4. 中卒後18歳より前 |
| 5. 18歳～19歳 | 6. 20歳以降 | | |

↓
【あなたの喫煙習慣について、おたずねします。】

問 6 あなたは、現在たばこをお吸いになりますか？ (○は1つ)

- | | | | |
|-------------------------|----------|----------|---------|
| 1. 以前から吸ったことがない → 問 7 へ | | | |
| 2. 以前吸っていたが、現在は吸っていない | | | |
| その場合、止めてからどのくらいになりますか？ | | | |
| 1. 1ヶ月未満 | 2. 3ヶ月未満 | 3. 6ヶ月未満 | 4. 1年未満 |
| 5. 3年未満 | 6. 5年未満 | 7. それ以上 | |
| } → 補問 2 へ | | | |
| 3. 1日に1～10本吸っている | | | |
| 4. 1日に11～20本吸っている | | | |
| 5. 1日に21本以上吸っている | | | |
| 6. おもにパイプたばこを吸っている | | | |

↓
補問 1 (たばこを吸っている方におたずねします。) これまでに禁煙しようかと考えたことがありますか？ (○は1つ)

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| 1. 禁煙を試みたが失敗した | 3. 禁煙を考えたことはない → 補問 3 へ |
| 2. 禁煙を考えたが実行したことがない | |

↓
補問 2 (禁煙した人および禁煙しようかと考えたことがある人におたずねします。)
禁煙しようかと考えた大きな理由は何ですか？ (○はいくつでもけっこうです)

- | |
|---|
| 1. 健康上の不調を感じたことはないが、その可能性が心配になったから |
| 2. 健康上の不調を感じたから |
| 3. 人から強く言われた訳ではないが、喫煙者は「白い目」で見られるようになってきたから |
| 4. 人から禁煙を強く言われたから |
| 5. その他(具体的に:) |

↓
補問 3 あなたが、「いたずら」を含めて、初めてたばこを吸ったのはいつ頃ですか？ (○は1つ)

- | | | | |
|------------|----------|----------|--------------|
| 1. 小学校以前 | 2. 小学校時代 | 3. 中学校時代 | 4. 中卒後18歳より前 |
| 5. 18歳～19歳 | 6. 20歳以降 | | |

↓
補問 4 あなたが、本格的に、たばこを吸い始めたのはいつ頃ですか？ (○は1つ)

- | | | | |
|------------|----------|-------------------|--------------|
| 1. 小学校以前 | 2. 小学校時代 | 3. 中学校時代 | 4. 中卒後18歳より前 |
| 5. 18歳～19歳 | 6. 20歳以降 | 7. 本格的な喫煙には至らなかった | |

↓
【鎮痛薬、睡眠薬、精神安定薬(抗不安薬)等についてお伺いします。】

問 7 次の薬のうち、あなたのご家庭にいつも用意しているものに○をつけて下さい。
(○はいくつでもけっこうです)

- | | | | |
|---------|----------|----------|---------|
| 1. 特にない | 4. ビタミン剤 | 7. 精神安定薬 | 10. 湿布薬 |
| 2. 風邪薬 | 5. 強精強肝薬 | 8. 睡眠薬 | 11. その他 |

3. 胃腸薬 6. 鎮痛薬 9. 抗生物質 (具体的に:)

問8 次の薬のうち、あなたが常用(週に4回以上使用)している薬があったら、○をつけて下さい。
(○はいくつでもけっこうです)

1. 特にない 4. ビタミン剤 7. 精神安定薬 10. 湿布薬
2. 風邪薬 5. 強精強肝薬 8. 睡眠薬 11. その他
3. 胃腸薬 6. 鎮痛薬 9. 抗生物質 (具体的に:)

問9 あなたは、この1年間で、平均すると鎮痛薬をどのくらいの頻度で使用しましたか? (○は1つ)

1. 一度も飲んでいない → 問10へ
4. この1年間で、数回飲んだ(年間5回以内)
5. 2ヶ月に1回程度、飲んだ(年間約6~11回)
6. 月に1~2回程度、飲んだ(年間約12~24回)
7. 月に数回程度、飲んだ(年間約25~51回)
8. 週に1~2回程度、飲んでいる
9. 週に3~6回程度、飲んでいる
10. ほとんど毎日、飲んでいる

補問1 (この1年間に、鎮痛薬を飲まれたことのある方におたずねします。) 鎮痛薬はどこから入手しましたか? (○はいくつでもけっこうです)

1. 医師(医院・病院)から 3. 家族(常備薬)から 5. 愛人・恋人から
2. 薬剤師・薬局から 4. 友人・知人から 6. その他(具体的に:)

補問2 使用理由は以下のどれですか? (○はいくつでもけっこうです)

1. 頭痛のため 2. 生理痛のため 3. その他の痛みのため 4. 遊び(快感)目的で
5. その他(具体的に:)

問10 鎮痛薬の中には、依存(やめようと思っても、簡単にはやめられなくなる状態)を作り得るものもありますが、そのような鎮痛薬も含めて、鎮痛薬の使用についての、あなたの実情・心情は次のどれに該当しますか? (○は1つ)

1. 必要な時には、心配せずに、使っている
2. 必要な時には、心配もあるが、どちらかという、使っている
3. 必要な時でも、心配だから、どちらかという、使わないようにしている
4. 必要な時でも、心配だから、とにかく使わない

問11 あなたは、この1年間で、平均すると精神安定薬(抗不安薬)をどのくらいの頻度で使用しましたか? (○は1つ)

1. 一度も飲んでいない → 問12へ
4. この1年間で、数回飲んだ(年間5回以内)
5. 2ヶ月に1回程度、飲んだ(年間約6~11回)
6. 月に1~2回程度、飲んだ(年間約12~24回)
7. 月に数回程度、飲んだ(年間約25~51回)
8. 週に1~2回程度、飲んでいる
9. 週に3~6回程度、飲んでいる
10. ほとんど毎日、飲んでいる

↓

補問1 (この1年間に、精神安定薬(抗不安薬)を飲まれたことのある方におたずねします。) 精神安定薬(抗不安薬)はどこから入手しましたか？(○はいくつでもけっこうです)

- | | | |
|----------------|--------------|----------------|
| 1. 医師(医院・病院)から | 3. 家族(常備薬)から | 5. 愛人・恋人から |
| 2. 薬剤師・薬局から | 4. 友人・知人から | 6. その他(具体的に:) |

↓

補問2 使用理由は以下のどれですか？(○はいくつでもけっこうです)

- | | | |
|--------------|--------------|----------------|
| 1. 不眠改善のため | 2. 不安解消のため | 3. ストレス軽減のため |
| 4. 高血圧の治療のため | 5. 遊び(快感)目的で | 6. その他(具体的に:) |

↓

問12 精神安定薬(抗不安薬)の中には、依存を作り得るものもありますが、そのような精神安定薬(抗不安薬)も含めて、精神安定薬(抗不安薬)の使用についての、あなたの実情・心情は、次のどれに該当しますか？(○は1つ)

- | |
|-------------------------------------|
| 1. 必要な時には、心配せずに、使っている |
| 2. 必要な時には、心配もあるが、どちらかという、使っている |
| 3. 必要な時でも、心配だから、どちらかという、使わないようにしている |
| 4. 必要な時でも、心配だから、とにかく使わない |

↓

問13 あなたは、この1年間で、平均すると睡眠薬をどのくらいの頻度で使用しましたか？(○は1つ)

- | |
|----------------------------|
| 1. 一度も飲んでいない → 問14へ |
| 4. この1年間で、数回飲んだ(年間5回以内) |
| 5. 2ヶ月に1回程度、飲んだ(年間約6~11回) |
| 6. 月に1~2回程度、飲んだ(年間約12~24回) |
| 7. 月に数回程度、飲んだ(年間約25~51回) |
| 8. 週に1~2回程度、飲んでいる |
| 9. 週に3~6回程度、飲んでいる |
| 10. ほとんど毎日、飲んでいる |

↓

補問1 (この1年間に、睡眠薬を飲まれたことのある方におたずねします。) 睡眠薬はどこから入手しましたか？(○はいくつでもけっこうです)

- | | | |
|----------------|--------------|----------------|
| 1. 医師(医院・病院)から | 3. 家族(常備薬)から | 5. 愛人・恋人から |
| 2. 薬剤師・薬局から | 4. 友人・知人から | 6. その他(具体的に:) |

↓

補問2 使用理由は以下のどれですか？(○はいくつでもけっこうです)

- | | | |
|--------------|--------------|----------------|
| 1. 不眠改善のため | 2. 不安解消のため | 3. ストレス軽減のため |
| 4. 高血圧の治療のため | 5. 遊び(快感)目的で | 6. その他(具体的に:) |

↓

問14 睡眠薬の中には、依存を作り得るものもありますが、そのような睡眠薬も含めて、睡眠薬の使用についての、あなたの実情・心情は、次のどれに該当しますか？(○は1つ)

- | |
|-------------------------------------|
| 1. 必要な時には、心配せずに、使っている |
| 2. 必要な時には、心配もあるが、どちらかという、使っている |
| 3. 必要な時でも、心配だから、どちらかという、使わないようにしている |
| 4. 必要な時でも、心配だから、とにかく使わない |

【薬物乱用・依存についてお伺いします。】

問15 以下の薬物は、すべて依存（止めようと思っても簡単にはやめられない状態）を作り得る薬物です。あなたが知っている名前の薬物があったら、○をつけて下さい。

(○はいくつでもけっこうです)

1. 大麻	5. モルヒネ	9. マリファナ	13. トルエン	17. ハシッシ
2. LSD	6. 有機溶剤	10. アシッド	14. シンナー	18. エス
3. スピード	7. 麻葉	11. ヒロポン	15. ヘロイン	
4. ハッパ	8. コカイン	12. クラック	16. 覚せい剤	19. すべて知らない

問16 薬物乱用を繰り返すと、依存状態になることを知っていますか？ (○は1つ)

1. よく知っている	2. だいたい知っている	3. 知らない
------------	--------------	---------

問17 「シンナー遊び」をする人の数について、どのような印象をお持ちですか？ (○は1つ)

1. 以前より増えている	2. 変わらない	3. 以前より減っている	4. わからない
5. 「シンナー遊び」と言う言葉を知らない→ 問18へ			1~4の場合→ 補問1へ

補問1 (問17で1~4を選んだ方におたずねします) あなたは、「シンナー遊び」を、これまでに行ったことのある人を知っていますか？

(2. 「知っている」を選んだ場合は、()内に、そのような人の人数を1つだけお書き下さい)

1. 知らない	2. 知っている → () 人
---------	------------------

補問2 (問17で1~4を選んだ方におたずねします) あなたは、「シンナー遊び」を、この1年間で、実際にいった人を知っていますか？

(2. 「知っている」を選んだ場合は、()内に、そのような人の人数を1つだけお書き下さい)

1. 知らない	2. 知っている → () 人
---------	------------------

補問3 あなたは、これまでに「シンナー遊び」に誘われたことがありますか？

(○はいくつでもけっこうです)

1. ない	2. この1年間より前にあった	3. この1年間にあった
-------	-----------------	--------------

補問4 あなたは、これまでに一回でも、「シンナー遊び」を経験したことがありますか？

(○はいくつでもけっこうです)

1. ない	2. この1年間より前にあった	3. この1年間にあった
-------	-----------------	--------------

問18 「シンナー遊び」で死亡すること (きゅうせいちゆうどくし急性中毒死) があるのを知っていますか？ (○は1つ)

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

問19 「シンナー遊び」を繰り返すと、歯がぼろぼろになりやすいことを知っていますか？ (○は1つ)

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

問20 「シンナー遊び」を繰り返すと、手足の筋肉や神経が衰え、物をつかめなくなったり、歩けなくなること (たはつしんけいえん多発神経炎) があるのを知っていますか？ (○は1つ)

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

↓

問21 「シンナー遊び」を繰り返すと、何も無いのに物が見えたり（幻視）、実際には何も聞こえないのに、声が聞こえたり（幻聴）、誰も何とも思っていないのに、人が自分の事を非難している思い込んだり（妄想）する状態（精神病状態）になることがあるのを知っていますか？
（○は1つ）

1. 知っている 2. 知らない

問22 「シンナー遊び」を繰り返すと、何事にも関心が持てなくなり、結果的に学校を欠席しがちになり、どんな仕事に就いても、長続きしなくなる（無動機症候群）を知っていますか？
（○は1つ）

1. 知っている 2. 知らない

問23 「シンナー遊び」の結果、幻視、幻聴、妄想が出るようになってしまうと、それを治療して治っても、その後「シンナー遊び」をやめていても、疲れ・ストレス・飲酒などで、幻視、幻聴、妄想が再び出現すること（フラッシュバック）があるのを知っていますか？（○は1つ）

1. 知っている 2. 知らない

問24 あなたは、大麻を吸っている人の数について、どのような印象をお持ちですか？（○は1つ）

1. 以前より増えている 2. 変わらない 3. 以前より減っている 4. わからない
5. 大麻という言葉を知らない → 問25 1～4の場合 → 補問1へ

補問1（問24で1～4を選んだ方におたずねします）あなたは、大麻を、これまでに吸ったことのある人を知っていますか？
（2. 「知っている」を選んだ場合は、（ ）内に、そのような人の人数を1つだけお書き下さい）

1. 知らない 2. 知っている → （ ）人

補問2（問24で1～4を選んだ方におたずねします）あなたは、大麻を、この1年間で、実際に吸った人を知っていますか？
（2. 「知っている」を選んだ場合は、（ ）内に、そのような人の人数を1つだけお書き下さい）

1. 知らない 2. 知っている → （ ）人

補問3 あなたは、これまでに、大麻使用に誘われたことがありますか？（○はいくつでもけっこうです）

1. ない 2. この1年間より前にあった 3. この1年間にあった

補問4 あなたは、これまでに一回でも、大麻を吸ったことがありますか？（○はいくつでもけっこうです）

1. ない 2. この1年間より前にあった 3. この1年間にあった

補問5 あなたは、大麻を吸うことをどう思いますか？（○は1つ）

1. 吸うべきではないと思う
2. 麻薬・覚せい剤とちがって、少々ならかまわないと思う
3. まったくかまわないと思う

問25 あなたは大麻を吸うと、上記の問21や問22と同じ精神病状態せいしんびょうじょうたいや無動機症候群むどうきしょうこうぐんになることがあるのを知っていますか？（○は1つ）

1. 知っている 2. 知らない

問26 あなたは、覚せい剤を使っている人の数について、どのような印象をお持ちですか？（○は1つ）

1. 以前より増えている 2. 変わらない 3. 以前より減っている 4. わからない
5. 覚せい剤という言葉を知らない → 問27へ 1~4の場合→補問1へ

補問1（問26で1~4を選んだ方におたずねします）あなたは、覚せい剤を、これまでに使ったことのある人を知っていますか？

（2. 「知っている」を選んだ場合は、（ ）内に、そのような人の人数を1つだけお書き下さい）

1. 知らない 2. 知っている →（ ）人

補問2（問26で1~4を選んだ方におたずねします）あなたは、覚せい剤を、この1年間で、実際に使った人を知っていますか？

（2. 「知っている」を選んだ場合は、（ ）内に、そのような人の人数を1つだけお書き下さい）

1. 知らない 2. 知っている →（ ）人

補問3 あなたは、これまでに、覚せい剤使用に誘われたことがありますか？

（○はいくつでもけっこうです）

1. ない 2. この1年間より前にあった 3. この1年間にあった

補問4 あなたは、これまでに一回でも、覚せい剤を使用したことがありますか？

（○はいくつでもけっこうです）

1. ない 2. この1年間より前にあった 3. この1年間にあった

問27 覚せい剤を使うと、上記の質問21と同じ精神病状態になりやすく、また質問23のようなフラッシュバックがあることを知っていますか？（○は1つ）

1. 知っている 2. 知らない

問28 あなたは、ヘロインを使用している人の数について、どのような印象をお持ちですか？（○は1つ）

1. 以前より増えている 2. 変わらない 3. 以前より減っている 4. わからない
5. ヘロインという言葉を知らない → 問29へ 1~4の場合→補問1へ

補問1（問28で1~4を選んだ方におたずねします）あなたは、ヘロインを、これまでに使ったことのある人を知っていますか？

（2. 「知っている」を選んだ場合は、（ ）内に、そのような人の人数を1つだけお書き下さい）

1. 知らない 2. 知っている →（ ）人

補問2（問28で1~4を選んだ方におたずねします）あなたは、ヘロインを、この1年間で、実際に使った人を知っていますか？

(2. 「知っている」を選んだ場合は、()内に、そのような人の人数を1つだけお書き下さい)

1. 知らない 2. 知っている → () 人

補問3 あなたは、これまでに、ヘロイン使用に誘われたことがありますか？

(○はいくつでもけっこうです)

1. ない 2. この1年間より前にあった 3. この1年間にあった

補問4 あなたは、これまでに一回でも、ヘロインを使用したことがありますか？

(○はいくつでもけっこうです)

1. ない 2. この1年間より前にあった 3. この1年間にあった

問29 あなたは、コカインを使用している人の数について、どのような印象をお持ちですか？ (○は1つ)

1. 以前より増えている 2. 変わらない 3. 以前より減っている 4. わからない
5. コカインという言葉を知らない → 問30へ 1~4の場合 → 補問1へ

補問1 (問29で1~4を選んだ方におたずねします) あなたは、コカインを、これまでに使ったことのある人を知っていますか？

(2. 「知っている」を選んだ場合は、()内に、そのような人の人数を1つだけお書き下さい)

1. 知らない 2. 知っている → () 人

補問2 (問29で1~4を選んだ方におたずねします) あなたは、コカインを、この1年間で、実際に使った人を知っていますか？

(2. 「知っている」を選んだ場合は、()内に、そのような人の人数を1つだけお書き下さい)

1. 知らない 2. 知っている → () 人

補問3 あなたは、これまでに、コカイン使用に誘われたことがありますか？

(○はいくつでもけっこうです)

1. ない 2. この1年間より前にあった 3. この1年間にあった

補問4 あなたは、これまでに一回でも、コカインを使用したことがありますか？

(○はいくつでもけっこうです)

1. ない 2. この1年間より前にあった 3. この1年間にあった

問30 あなたは、LSDを使用している人の数について、どのような印象をお持ちですか？ (○は1つ)

1. 以前より増えている 2. 変わらない 3. 以前より減っている 4. わからない
5. LSDという言葉を知らない → 問31へ 1~4の場合 → 補問1へ

補問1 (問30で1~4を選んだ方におたずねします) あなたは、LSDを、これまでに使ったことのある人を知っていますか？

(2. 「知っている」を選んだ場合は、()内に、そのような人の人数を1つだけお書き下さい)

1. 知らない 2. 知っている → () 人

↓
補問2 (問30で1~4を選んだ方におたずねします) あなたは、LSDを、この1年間で、実際に使った人を知っていますか？

(2.「知っている」を選んだ場合は、()内に、そのような人の人数を1つだけお書き下さい)

1. 知らない 2. 知っている → () 人

↓
補問3 あなたは、これまでに、LSD使用に誘われたことがありますか？ (○はいくつでもけっこうです)

1. ない 2. この1年間より前にあった 3. この1年間にあった

↓
補問4 あなたは、これまでに一回でも、LSDを使ったことがありますか？

(○はいくつでもけっこうです)

1. ない 2. この1年間より前にあった 3. この1年間にあった

↓
問31 あなたが「シンナー遊び」のために有機溶剤を手に入れようとした場合、それはどの程度むずかしいことですか？ (○は1つ)

1. 簡単に手に入る 4. 絶対不可能だ
2. 少々苦勞するが、なんとか手に入る 5. 「シンナー」という言葉を知らない
3. ほとんど不可能だ

↓
問32 あなたが大麻を手に入れようとした場合、それはどの程度むずかしいですか？ (○は1つ)

1. 簡単に手に入る 2. 少々苦勞するが、なんとか手に入る
3. ほとんど不可能だ 4. 絶対不可能だ
5. 大麻という言葉を知らない

↓
問33 あなたが覚せい剤を手に入れようとした場合、それはどの程度むずかしいですか？ (○は1つ)

1. 簡単に手に入る 2. 少々苦勞するが、なんとか手に入る
3. ほとんど不可能だ 4. 絶対不可能だ
5. 覚せい剤という言葉を知らない

↓
問34 あなたがヘロインを手に入れようとした場合、それはどの程度むずかしいですか？ (○は1つ)

1. 簡単に手に入る 2. 少々苦勞するが、なんとか手に入る
3. ほとんど不可能だ 4. 絶対不可能だ
5. ヘロインという言葉を知らない

↓
問35 あなたがコカインを手に入れようとした場合、それはどの程度むずかしいですか？ (○は1つ)

1. 簡単に手に入る 2. 少々苦勞するが、なんとか手に入る
3. ほとんど不可能だ 4. 絶対不可能だ
5. コカインという言葉を知らない

↓
問36 あなたがLSDを手に入れようとした場合、それはどの程度むずかしいですか？ (○は1つ)

1. 簡単に手に入る 2. 少々苦勞するが、なんとか手に入る
3. ほとんど不可能だ 4. 絶対不可能だ
5. LSDという言葉を知らない

↓
問37 大麻を吸うことは法律で禁止されていますが、あなたは大麻を吸うことについて、どう思いま

すか？ (○は1つ)

1. 法律で禁止されているから、すべきではないと思う
2. 法律で禁止されてはいるが、少々ならかまわないと思う
3. 法律で禁止されてはいるが、そもそも法律で決める必要はなく、個人の自由だと思う
4. 大麻のことを知らないから、判断できない

問38 覚せい剤を使用することは法律で禁止されていますが、あなたは覚せい剤を使用することを、どう思いますか？ (○は1つ)

1. 法律で禁止されているから、すべきではないと思う
2. 法律で禁止されてはいるが、少々ならかまわないと思う
3. 法律で禁止されてはいるが、そもそも法律で決める必要はなく、個人の自由だと思う
4. 覚せい剤のことを知らないから、判断できない

問39 最後の問いです。あなたが、この1年間に受診したことがある診療科に○をして下さい。
(○はいくつでもけっこうです)

- | | | | | |
|--------|------------|----------|-----------------|---------|
| 1. 内科 | 2. 神経科・精神科 | 3. 神経内科 | 4. 外科 | 5. 整形外科 |
| 6. 皮膚科 | 7. 脳神経外科 | 8. 泌尿器科 | 9. 産婦人科 | 10. 眼科 |
| 11. 歯科 | 12. 耳鼻咽喉科 | 13. 心療内科 | 14. その他(具体的に:) | |

ご協力ありがとうございました。

なお、この調査についての結果は、来年の7月頃に公表します。

結果をお知りになりたい方は、ハガキにあなた様の住所、氏名をご記入になり、下記の「結果請求用紙」を点線に沿って切り取り、ハガキに貼付の上、1999年11月末日までに、下記住所（点線に沿って切り取り、ハガキに添付して下さい）までご請求下さい。来年の7月頃に郵送させていただきます。

（結果は、調査対象全員について、統計的にまとめられたものであり、個人について論じたものではありません。ただし、郵送の必要上、あなた様が本調査の対象の一人であったことが、当研究部にはわかりますが、当研究部では、あなた様ご自身の記載内容を特定することはできませんし、あなた様が本調査の対象の一人であったことを漏らすことは、一切ありません。）

注：下記を切り取る際は、裏面の回答が切り取られないよう、点線に沿ってお切り下さい。

結果請求先

住民調査99の 千272-0827 千葉県市川市国府台 1-7-3
結果を 国立精神・神経センター 精神保健研究所
請求します 薬物依存研究部 住民調査 担当者 宛